

消 防 年 報

令和元年度版



成 田 市 消 防 本 部

はじめに

この年報は、令和元年中及び令和元年度における成田市の消防業務に関する諸般の事項を収録し、今後の消防行政の基本資料とするために編集したものです。

消防関係機関はもとより、あらゆる方面でご活用いただき、本市消防行政をご理解いただく一助となれば幸いです。

令和 2 年 9 月

成田市消防本部



成田市民憲章

信仰のまち、世界に通ずるまち成田は、わたくしたちのふるさとです。

ゆたかな自然と文化にめぐまれてきたわたくしたち成田市民は、大きな希望と誇りをもって世界に伸びようとしています。

わたくしたちは、成田のかがやかしい発展とおたがいのしあわせをねがい、この市民憲章をさだめます。

1 親切な心で

平和な成田をつくりましょう

1 よろこんで働き

豊かな成田をつくりましょう

1 きまりをまもり

住みよい成田をつくりましょう

1 自然と文化を大切に

美しい成田をつくりましょう

1 若い力をそだて

明るい成田をつくりましょう

目次

成田市の概要

1	成田市の概要	1
2	成田市及び神崎町の人口・世帯数・面積	1
3	成田市消防の沿革	2

成田市消防の概要

1	消防概要	
(1)	成田市消防の組織図	1 0
(2)	消防署の配置及び施設一覧	1 1
(3)	成田市消防の事務分掌	1 2
(4)	職員の配置状況	1 5
(5)	階級・年齢別消防職員数	1 6
(6)	階級・勤続年数別消防職員数	1 7
2	消防職員の教育研修実施状況	
(1)	消防大学校・千葉県消防学校・救急振興財団	1 8
(2)	資格技能研修	1 9
(3)	その他の外部研修	1 9
3	成田市の予算と消防予算	
(1)	市一般会計と消防費の比較	2 0
(2)	消防予算と人口・世帯数の比較	2 0
(3)	歳出予算額の比較	2 0
4	消防署の施設見学状況	2 1
5	消防職員表彰状況	2 1
6	消防音楽隊	2 2
7	応援協定・業務協定	2 3

成田市消防委員会

成田市消防委員会	2 6
----------	-----

成田市消防団

1 成田市消防団の概要	2 7
2 成田市消防団の組織図	2 8
3 消防団の配置状況	2 9
4 階級・年齢別消防団員数	3 0
5 消防団の車両配置状況	3 1
6 消防団員の表彰状況	3 2

火災予防

1 防火対象物の現況	3 3
2 用途別中高層建物数	3 4
3 地区別中高層建物数	3 5
4 立入検査実施状況	3 6
5 危険物施設の現況	3 7
6 危険物施設事務処理状況	3 7
7 各種届出の処理状況	3 8
8 建築同意の処理状況	3 8

火 災

1 火災の概要	3 9
2 出火件数	
(1) 火災種別ごとの出火件数	4 0
(2) 火災種別ごとの出火件数の推移（過去5年間）	4 1
(3) 四季別出火状況	4 2
(4) 月別出火件数	4 3
(5) 時間別出火件数	4 4
(6) 地区別出火件数・出火率・人口及び世帯数	4 5

(7) 署別出火件数・出火種別	4 6
(8) 初期消火の状況	4 6
(9) 覚知方法別出火件数	4 7
3 損害額	
(1) 過去5年間の損害額の推移	4 8
(2) 火災種別損害額	4 8
(3) 出火原因別の出火件数と損害額	4 9
4 火災種別ごとの状況	
(1) 建物火災	
(ア) 建物火災月別出火件数	5 0
(イ) 建物用途別の建物火災損害状況	5 1
(ウ) 火元建物構造別損害状況	5 2
(エ) 建物火災の損害額及び焼損面積の段階別出火件数	5 2
(オ) 建物火災の出火件数と損害額	5 3
(カ) 建物火災の放水開始時間別焼損状況	5 4
(キ) 建物火災の鎮火所要時間別焼損状況	5 4
(2) 林野火災	5 5
(3) 車両火災	
(ア) 車両火災の出火原因別焼損状況	5 5
(4) 航空機火災	5 6
(5) 船舶火災	5 6
(6) その他の火災	5 6
(ア) その他の火災の出火原因別損害状況	5 7

救 急

1 救急の概要	5 8
(1) 救急出動件数及び搬送人員	5 9
(2) 署所別救急出動件数	6 0

(3) 地区別救急出動件数	6 1
(4) 時間別救急出動件数	6 2
(5) 月別救急出動件数	6 3
(6) 現場到着所要時間別出動件数	6 4
(7) 医療機関別搬送人員状況	6 5
(8) 年齢区分別搬送人員状況	6 6
(9) 傷病程度別搬送人員状況	6 7
(10) 病院収容所要時間別搬送人員	6 8
(11) 転送回数別搬送人員	6 8
(12) 不搬送理由別不搬送件数	6 9
(13) 救急隊員が行った応急処置件数	7 0
2 救命講習実施概要	7 1

救 助

1 救助の概要	
(1) 救助業務実施状況	7 2
(2) 署所別救助出動件数	7 2
(3) 出動車両及び出動人員の状況	7 3

航空機災害

1 航空機災害の概要	
(1) 月別緊急着陸の警戒出動件数	7 4
(2) 原因別緊急着陸の警戒出動件数	7 4

その他の出動等

その他の出動及び出向状況	7 5
--------------	-----

消防水利

1 地区別消防水利状況	7 6
2 年度別消防水利新設状況	7 7

装 備

- | | | |
|---|---------------------|-----|
| 1 | 主な特殊器具 | 7 8 |
| 2 | 常備消防の車両等の配置状況及び諸元性能 | 7 9 |

通信指令

- | | | |
|---|-------------|-----|
| 1 | 通信指令業務の概要 | 8 0 |
| 2 | 消防通信指令施設の現況 | 8 1 |
| 3 | 月別出動指令状況 | 8 2 |
| 4 | 1 1 9 番受付状況 | 8 2 |

消防関係団体

- | | | |
|---|---------------|-----|
| 1 | 成田市危険物安全協会 | 8 3 |
| 2 | 成田市防火協会 | 8 4 |
| 3 | 成田市婦人防火指導員協議会 | 8 5 |

成田市の概要



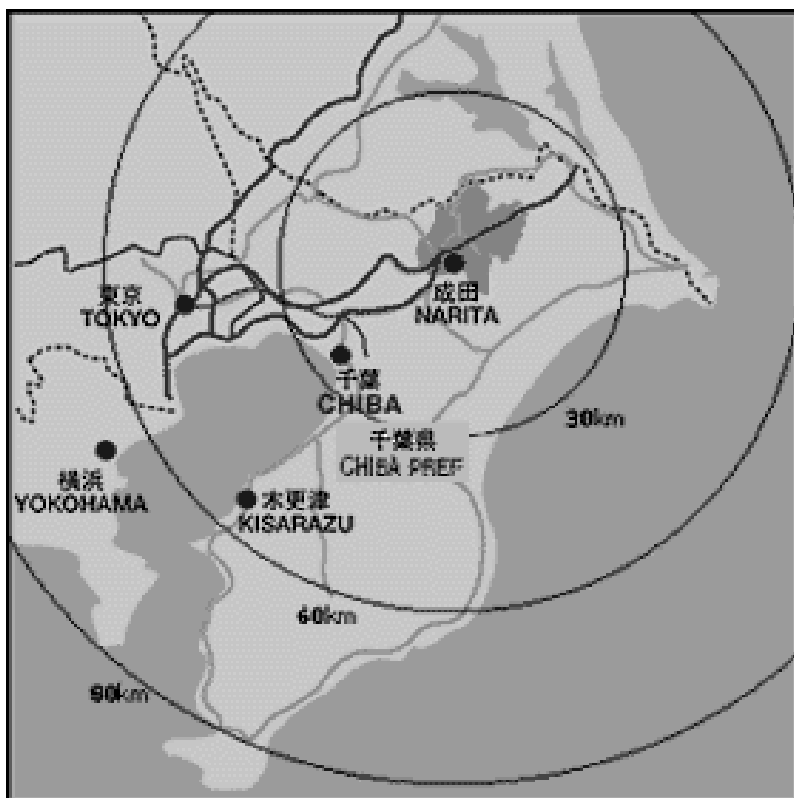
成田ちびっこ消防隊出動！

1 成田市の概要

成田市は、千葉県北部中央に位置し、面積約213.84km²、人口約13万人の中核都市です。北は利根川を隔てて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市と接し、南には日本の空の玄関口である成田国際空港があります。

また、市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺があり、その門前町として毎年多くの参拝客で賑わいます。

かつて田園観光都市だった成田は、信仰の街としての顔と、交通、経済、文化など様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔を持つ街へと大きく変貌しています。



2 成田市及び神崎町の人口・世帯数・面積

令和2年4月1日現在

区分 市町名	人口 (人)			世帯数 (戸)	面積 (km ²)
	男性	女性	合計		
成田市	66,612	66,549	133,161	63,636	213.84
神崎町	3,052	2,933	5,985	2,488	19.90

3 成田市消防の沿革

昭和29年 (1954年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> 成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の1町6村が合併し、成田市が誕生する。 成田市消防委員会が発足する。 成田市消防団が発足する。(7ヶ支団63ヶ分団 2,250名)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防団条例改正により定員を2,000名とする。
昭和31年 (1956年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 団機構改革に伴い支団制を廃止、分団制を敷き7ヶ分団となる。 遠山地区に1ヶ部新設し、64ヶ部となる。
昭和32年 (1957年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 遠山地区に1ヶ部新設し、65ヶ部となる。
昭和36年 (1961年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 遠山地区に1ヶ部新設し、66ヶ部となる。
昭和38年 (1963年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> 遠山地区に1ヶ部新設し、67ヶ部となる。
昭和40年 (1965年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> 昭和40年4月1日に消防本部及び消防署を発足することを目標に、職員18名が採用され、千葉県消防学校初任科に入校する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 消防ポンプ車を1台購入する。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部、消防署が発足する。 初代消防長に藤倉武男市長事務取扱が就任する。 消防職員の条例定数を18名、消防団員の条例定数を1,000名とする。 成田市危険物安全協会が設立される。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 消防本部、消防署の庁舎が落成する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 成田市ライオンズクラブより救急車1台が寄贈される。 救急業務を開始する。
昭和41年 (1966年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> 成田市・富里村救急業務協定を締結する。 職員6名採用、実員23名とする。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 水槽付消防ポンプ車1台を新規整備する。
昭和42年 (1967年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> 超短波無線電話装置を設置する。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 指揮車1台を新規整備する。
昭和44年 (1969年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> 化学車1台を新規整備する。 無線移動局を1局新規整備する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 救急車1台を新規整備する。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> 成田市・栄町消防業務応援協定を締結する。 成田市消防音楽隊を発足する。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 定数条例の改正により、消防職員の定数が84名となる。
昭和45年 (1970年)	10月	<ul style="list-style-type: none"> 空港関連事業により、三里塚分署の庁舎建設が着工となる。

昭和46年 (1971年)	3月	・化学車1台、水槽付消防ポンプ車1台、消防ポンプ車1台、救急車1台、無線移動局5局を新規整備する。
	6月	・三里塚分署開設。(消防車3台、救急車1台、職員数30名)
	7月	・定数条例の改正により、消防職員の定数が150名となる。
	10月	・東関東自動車道開通に伴い、新空港自動車道消防相互応援協定を千葉市・佐倉市・四街道市・酒々井町・富里村と締結する。 ・道路公団よりマイクロバス型救急車1台が寄贈される。
昭和47年 (1972年)	1月	・15m級屈折梯子付消防ポンプ車1台、水槽付消防ポンプ車1台、消防ポンプ車1台、無線移動局3局を新規整備する。
	6月	・日本損害保険協会より消防ポンプ車1台が寄贈される。
昭和48年 (1973年)	3月	・32m級梯子付消防ポンプ車1台、無線移動局1局を新規整備する。
	6月	・千葉県共済農業協同連合会より救急車1台が寄贈される。
	10月	・赤坂分署開設。(消防車3台、救急車1台、職員数34名) ・消防本部機構を3課4係とする。
	11月	・野毛平の大火が発生する。
昭和49年 (1974年)	3月	・坂口武年氏より救急車1台が寄贈される。
	4月	・日本損害保険協会より救急車1台が寄贈される。
	11月	・水槽付消防ポンプ車1台、消防ポンプ車1台を新規整備する。
昭和50年 (1975年)	2月	・救助工作車を新規整備する。
	8月	・成田市防火協会が設立される。
	9月	・日本船舶振興会より救急車1台が寄贈される。
昭和51年 (1976年)	4月	・特別救助隊を発足する。
昭和52年 (1977年)	2月	・水槽車1台を新規整備する。
	12月	・新東京国際空港消防連絡協議会を発足する。
昭和53年 (1978年)	3月	・新東京国際空港消防相互応援協定を、近隣市町、近隣消防本部、新東京国際空港公団と締結する。 ・斎藤市蔵氏より無線指令車1台が寄贈される。 ・水槽車1台を新規整備する。 ・建設中の新東京国際空港管制塔に過激派が乱入する。
	5月	・新東京国際空港が開港する。 ・新空港自動車道(成田IC～新空港IC)が開通する。
昭和54年 (1979年)	3月	・消防本部の庁舎が増改築される。
	4月	・消防本部予防課に危険物係を増設する。
	9月	・職員が作製した地震体験車の運用開始。
	12月	・成田市婦人防火指導員協議会が発足する。

昭和55年 (1980年)	3月	・消防救急一斉指令装置を導入する。
	11月	・消防100年記念 消防団全国大会が開催される。
	12月	・消防ポンプ車1台、化学車IV型1台を新規整備する。
昭和56年 (1981年)	2月	・照明電源車1台を新規整備する。
	7月	・資材搬送車1台を新規整備する。
	11月	・成田市防火協会より査察車1台が寄贈される。
	12月	・水槽付消防ポンプ1台を更新整備する。
昭和57年 (1982年)	4月	・東関東自動車道の延伸により、東関東自動車道及び新空港自動車道 消防相互応援協定を、習志野市、船橋市、市川市、浦安市と締結。
	9月	・台風18号が襲来、市内各地で被害が多発する。
	10月	・救急車1台を新規整備する。
昭和58年 (1983年)	3月	・自治省消防庁長官より、竿頭綬が授与される。
	6月	・飯岡分遣所開設。(消防車1台、救急車1台、広報車1台、職員数 11名)
	10月	・救急車1台を更新整備する。
昭和59年 (1984年)	11月	・水槽付消防ポンプ車1台を新規整備、水槽付消防ポンプ車1台を更新整 備する。
	12月	・救急車1台を更新整備する。
昭和60年 (1985年)	3月	・化学車大II型1台を新規整備する。
	9月	・成田興業株式会社(現 株式会社ナリコー)より救急車1台が寄贈される。
	12月	・消防ポンプ車1台を更新整備する。
昭和61年 (1986年)	4月	・東関東自動車道(成田IC~大栄IC)が開通する。 ・東関東自動車道及び新空港自動車道消防相互応援協定を、佐原市外 五町消防組合と締結する。
	11月	・水槽付消防ポンプ車1台を新規整備する。
昭和62年 (1987年)	11月	・東関東自動車道の延伸により、東関東自動車道及び新空港自動車道消防 相互応援協定を締結する。
昭和63年 (1988年)	1月	・40m級梯子付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	6月	・広報車3台を更新整備する。
	11月	・市役所新庁舎完成に伴い、消防本部及び成田消防署を移転する。 ・成田市防火協会より、広報車1台が寄贈される。
	12月	・救助工作車II型1台及び救助資機材を更新整備する。
平成元年 (1989年)	3月	・消防緊急情報システムII型(指令装置、地図等検索装置、無線統制 台)を整備する。
平成2年 (1990年)	2月	・15m級屈折梯子付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	3月	・消防緊急情報システムII型(自動出動指定装置、指令伝送装置、A VM装置)を整備する。
	10月	・救急車2台を更新整備する。

平成3年 (1991年)	4月	・救急救命士法が制定される。 ・組織機構を改正し、通信指令係を通信指令室に、三里塚分署を三里塚消防署に、赤坂分署を赤坂消防署に、飯岡分遣所を飯岡分署にそれぞれ昇格する。
	10月	・救急車1台を更新整備する。
	11月	・水槽車1台、水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成4年 (1992年)	3月	・消防庁長官旗が授与される。
	6月	・定数条例の改正により、消防職員の定数が180名となる。
	11月	・水槽車1台、消防ポンプ車1台、救急車1台を更新整備する。
	12月	・成田国際空港第2ターミナルビルの運用が開始される。
平成5年 (1993年)	3月	・渡邊貞藏氏より高規格救急車1台が寄贈される。
	12月	・消防ポンプ車1台、水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成6年 (1994年)	3月	・救急救命士業務に係る救急救命処置に関する覚書を締結する。
	4月	・空港分署開設。(救急車1台、職員数8名) ・本市初となる救急救命士が誕生、成田消防署に高規格救急車を配備し運用開始となる。
	11月	・救急車1台を更新整備する。
平成7年 (1995年)	6月	・緊急消防援助隊制度が創設される。
平成8年 (1996年)	1月	・「防災とボランティアの日」及び「防災とボランティア週間」が制定される。
	4月	・組織機構を改正し、通信指令室を通信指令課に昇格する。
	8月	・広報車1台を更新整備する。
	10月	・消防職員委員会制度を制定する。 ・水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成9年 (1997年)	1月	・化学車1台を更新整備する。
	9月	・広報車4台を更新整備する。
	11月	・水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	12月	・消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成10年 (1998年)	2月	・指揮車1台を更新整備する。
	3月	・照明電源車1台を更新整備する。
	4月	・携帯電話等からの119番通報転送等に関する協定を締結する。
平成11年 (1999年)	3月	・救急車1台を更新整備する。
	6月	・富里市と消防相互応援協定を締結する。
	8月	・芝山町及び山武郡市広域行政組合と消防相互応援協定を締結する。
平成12年 (2000年)	2月	・救急車1台を更新整備する。
平成13年 (2001年)	3月	・高規格救急車1台を更新整備する。

平成14年 (2002年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防緊急通信指令施設Ⅱ型を更新整備する。 ・佐野の大火が発生する。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・成田国際空港の暫定B滑走路の運用が開始される。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国消防長会警防防災委員会が成田市で開催される。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団が「県民の消防員」団体の部を受章する。
平成15年 (2003年)	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・救助工作車Ⅱ型1台、救助資機材、高規格救急車1台を更新整備する。
平成16年 (2004年)	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応特殊救急車1台、高度救命処置用資機材を更新整備する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・化学車大Ⅱ型1台を更新整備する。 ・成田国際空港第2給油センターが運用開始となる。
平成17年 (2005年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・常備消防力の適正配置調査を実施する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・40m級梯子車1台、水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・成田国際空港消防相互応援協定を締結する。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ナリコーより、高規格救急車1台が寄贈される。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部発足40周年記念講演会を開催する。 (講師：東京消防庁 田中英夫氏、元長崎県島原市長 鐘ヶ江管一氏) ・広報車1台を更新整備する。
平成18年 (2006年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・下総町、大栄町と合併し、新成田市が誕生する。 ・大栄消防署開設。 (消防車2台、高規格救急車1台、指揮車1台、職員数29名) ・大栄消防署下総分署開設。 (消防車2台、高規格救急車1台、職員数21名) ・消防本部4課4署3分署体制、消防職員定数250名となる。 ・消防団の組織改編により、12分団97ヶ部、消防団員定数1,535名となる。 ・香取郡神崎町・成田市消防事務の委託に関する規約を定める。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第28回千葉県消防音楽隊フェスティバルが成田市で開催される。 ・広報車1台を新規整備する。
平成19年 (2007年)	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・水槽付消防ポンプ車1台、高規格救急車1台を新規整備、高規格救急車1台を更新整備する。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回全国消防長会警防防災委員会が成田市で開催される。 ・高規格救急車1台を更新整備する。
平成20年 (2008年)	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道災害時における鉄道軌道事業者と消防機関との連携に関する協定を千葉県内消防本部、鉄道軌道事業者及び千葉県と締結する。
平成21年 (2009年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・フェデラルエクスプレス貨物機が墜落、炎上。 ・赤坂消防署公津分署開設。 (消防車1台、高規格救急車1台、広報車1台、職員数18名)
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・稲敷地方広域市町村圏事務組合と消防相互応援協定を締結する。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急車1台を更新整備する。

平成22年 (2010年)	3月	・総務省消防庁から緊急地域安全対策事業として、救助資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車が消防団（第2分団第8部：飯田町）に配備される。
	9月	・消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成23年 (2011年)	3月	・東日本大震災が発生し、成田市で震度6弱を観測する。 ・緊急消防援助隊千葉県隊として福島県へ出動する。 (第7次隊、計42名が出動)
	4月	・ちば消防共同指令センター運用開始に向け、成田市を含む20団体により「千葉市ほか10市1町8一部事務組合消防指令事務協議会」が設置される。
	10月	・第14回全国消防長会警防防災委員会が成田市で開催される。
	12月	・潜水員による水難救助活動を開始する。
平成24年 (2012年)	2月	・水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	3月	・高規格救急車1台を更新整備する。
	4月	・組織改編により、通信指令課に指揮隊を設置する。
	8月	・消防団に簡易型デジタル無線機226台を配備する。
	12月	・ちば消防共同指令センターの暫定運用が開始される。 ・広報車1台を更新整備する。
平成25年 (2013年)	1月	・栄町消防本部と消防相互応援協定を締結する。
	3月	・消防ポンプ車1台を更新整備する。 ・指揮車1台を更新整備する。
	4月	・赤坂消防署新庁舎が完成する。 ・組織改編を行い、総務課を消防総務課に、通信指令課を指揮指令課に変更。 ・千葉県北東部及び南部の20消防本部により「ちば消防共同指令センター」の共同運用が開始される。
	10月	・台風26号が襲来、市内各地で被害が多発する。
	12月	・消防ポンプ車2台を更新整備する。
	3月	・指揮車3台、高規格救急車1台を更新整備する。
平成26年 (2014年)	7月	・広報車1台を更新整備する。
	9月	・指揮車1台を更新整備する。
	11月	・成田市市制60周年記念式典を開催する。 ・消防ポンプ車1台、ボートトレーラー1台、救助ボート1艘を更新整備する。
	4月	・成田国際空港第3ターミナルビルの運用が開始される。
平成27年 (2015年)	10月	・消防本部発足50周年記念講演会を開催する。 (講師：総務省消防庁消防大学校 富岡豊彦氏)
	11月	・第5回緊急消防援助隊全国合同訓練が千葉県で実施される。
	12月	・広報車1台を更新整備する。
	12月	・広報車1台を更新整備する。

平成28年 (2016年)	1月	・高規格救急車1台を更新整備する。
	2月	・屈折梯子車1台、水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
	4月	・公津の杜に国際医療福祉大学が開学する。
	5月	・第23回全国消防長会警防防災委員会が成田市で開催される。
	7月	・三里塚消防署の建替えに伴い、旧庁舎を使用し特別訓練を実施する。
	11月	・第1回警防技術大会を開催する。 ・機関員安全運転技能講習会を実施する。(於：成田自動車教習所)
	12月	・水槽付消防ポンプ車1台、高規格救急車2台を更新整備する。
平成29年 (2017年)	3月	・消防団の組織改編を行い、12分団94ヶ部となる。 ・株式会社ナリコーより、応急手当啓発用資機材が寄贈される。
	4月	・消防団に女性部が発足し、12分団95ヶ部となる。
	9月	・指揮車1台を更新整備する。
	12月	・高規格救急車1台、水槽付消防ポンプ車1台を更新整備する。
平成30年 (2018年)	1月	・広報車1台を更新整備する。
	2月	・水槽付消防ポンプ車1台を更新整備、支援車Ⅲ型1台を新規整備する。
	5月	・三里塚消防署新庁舎が完成する。
	8月	・千葉県北総生コンクリート協同組合と災害時における消防用水等の供給支援に関する協定を締結する。
	10月	・第40回千葉県消防音楽隊フェスティバルが成田市で開催される。
平成31年 令和元年 (2019年)	1月	・救助工作車Ⅲ型を新規整備する。
	2月	・水槽車1台を更新整備する。
	3月	・印西地区消防組合と消防相互応援協定を締結する。
	4月	・高度救助隊を発足する。
	5月	・元号が令和となる。
	9月	・台風15号が襲来、市内各地で被害が多発する。
	10月	・台風19号の襲来に伴い、利根川が氾濫危険水位に到達。市内の利根川浸水想定区域に避難勧告が発令される。 ・10月25日の大雨により、市内各地で被害が多発する。
令和2年 (2020年)	1月	・株式会社ナリコーと学校法人日栄学園日本自動車大学校より、ちびっこ消防車が寄贈される。 ・高規格救急車1台を更新整備する。
	3月	・化学車1台を更新整備する。

～歴代消防長～

	任命年月	氏名
初代	昭和40年(1965年)4月～	藤倉 武男
二代	昭和45年(1970年)8月～	山田 良即
三代	昭和47年(1972年)4月～	渡辺 薫
四代	昭和50年(1975年)7月～	山田 晃
五代	昭和53年(1978年)2月～	小川 長顕
六代	昭和59年(1984年)6月～	青柳 敏雄
七代	平成2年(1990年)4月～	榊原 晋
八代	平成6年(1994年)4月～	島田 勝正
九代	平成7年(1995年)3月～	長谷川 章
十代	平成9年(1997年)4月～	宮崎 寛司
十一代	平成13年(2001年)4月～	鶴田 成孝
十二代	平成15年(2003年)4月～	宮野 茂
十三代	平成15年(2003年)7月～	根本 一彦
十四代	平成17年(2005年)7月～	秋山 恒男
十五代	平成20年(2008年)4月～	山口 貫司
十六代	平成23年(2011年)4月～	伊藤 新一
十七代	平成25年(2013年)4月～	内田 廣
十八代	平成27年(2015年)4月～	山下 昌起
十九代	平成29年(2017年)4月～	大谷 昌利
二十代	平成31年(2019年)4月～	大野 勝也
二十一代	令和2年(2020年)4月～	鬼澤 正春

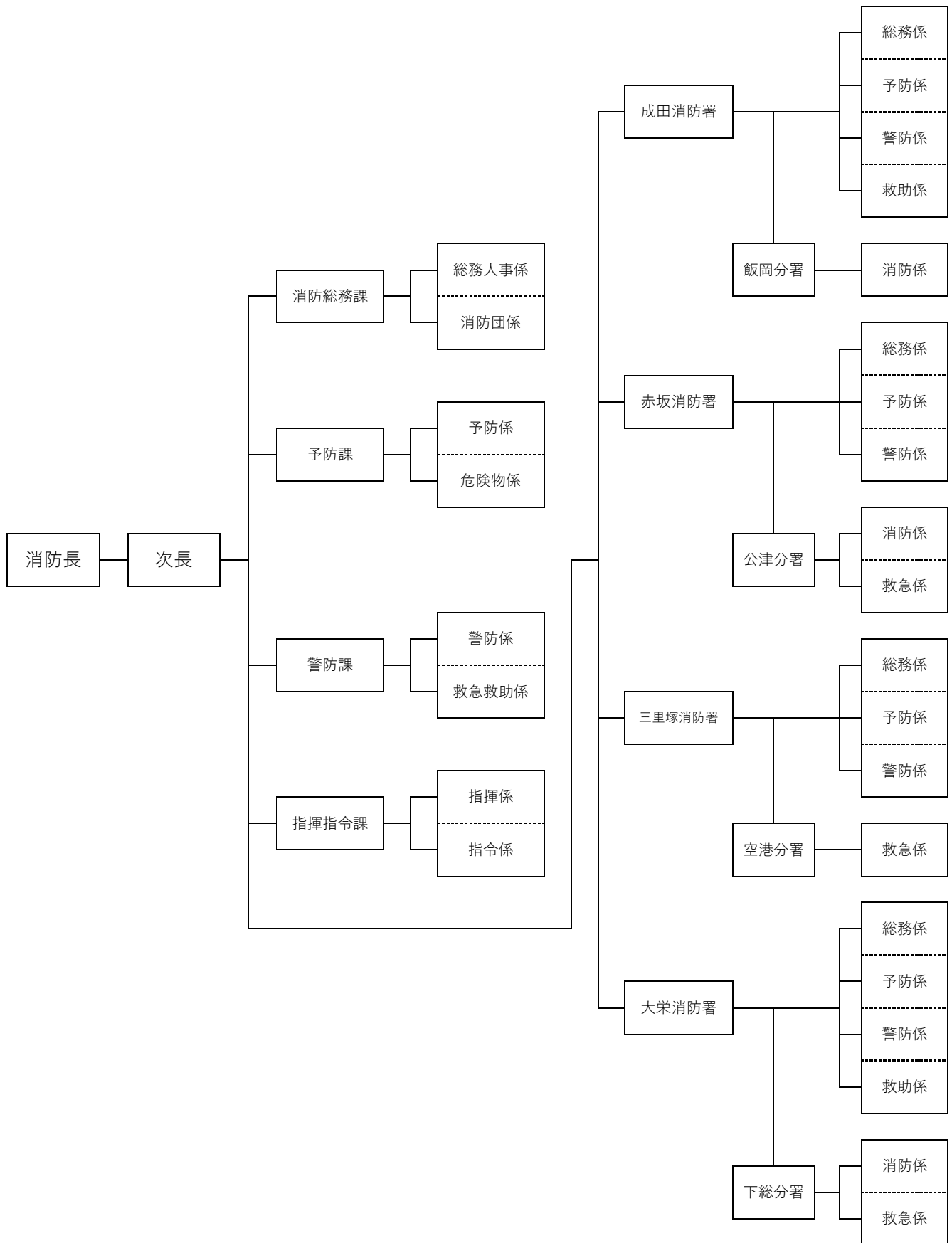
成田市消防の概要



消防長点検の様子

1 消防概要

(1) 成田市消防の組織図



(2) 消防署の配置及び施設一覧

【消防署の配置】



【施設一覧】

所 属	所在地	建築年月	延べ面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	建物構造
消防本部 成田消防署	成田市花崎町 760	昭和 63 年 11 月	2,059.55 ※占有面積	24,746.49 ※市役所合同庁舎	鉄骨・鉄筋 C 造 (地下 2 階、地上 6 階)
飯岡分署	成田市飯岡 107-3	昭和 58 年 6 月	241.53	1,006.57	鉄骨 ALC 造 (1 階)
赤坂消防署	成田市赤坂 3-3	平成 25 年 4 月	1,541.08	3,747.27	庁舎棟：鉄筋 C 造 (2 階) 調査分析棟：鉄骨造 (1 階)
公津分署	成田市江弁須 98-1	平成 21 年 3 月	1,104.36	3,143.84	鉄筋 C 造 (2 階)
三里塚消防署	成田市三里塚 2	平成 30 年 5 月	1465.71	3,176.86	庁舎棟：鉄筋 C 造 (2 階) 車庫棟：鉄骨造 (1 階)
空港分署	成田市木の根 19	平成 6 年 3 月	392.31	308.62	鉄筋 C 造 (2 階)
大栄消防署	成田市津富浦 1230	平成 17 年 3 月	929.89	5,085.07	鉄筋 C 造 (3 階)
下総分署	成田市名木 1055-1	平成 15 年 6 月	726.32	2224.51	鉄筋 C 造 (2 階)

(3) 成田市消防の事務分掌

【消防本部】

課名	係 別	所 掌 事 務
消 防 総 務 課	総務人事係	消防組織、機構その他重要事項の調査研究及び企画立案に関すること
		消防財産の維持管理に関すること
		消防予算の執行管理及び調製に関すること
		規程等の制定改廃に関すること
		消防職員の任免、分限、服務、賞罰、給与その他人事に関すること
		消防職員の研修に関すること
		消防職員の貸与品に関すること
		消防職員の福利厚生、安全及び健康管理に関すること
		公告式に関すること
		公印の管守に関すること
		文書の收受、発送、整理及び保存に関すること
		消防職員の公務災害補償に関すること
		消防庁舎等の整備に関すること
		消防職員の勤務時間その他勤務条件に関すること
		消防職員の人事評価に関すること
		消防安全衛生委員会及び消防職員委員会に関すること
		消防音楽隊に関すること
		成田国際空港消防連絡協議会に関すること
	消防本部内他課及び消防署の連絡調整に関すること	
	他課の所掌に属しない事項に関すること	
消防団係	消防団に関すること	
	消防長会及び消防協会に関すること	
	消防表彰に関すること	
予 防 課	予防係	防火思想の普及及び啓発に関すること
		防火管理及び防災管理に関すること
		火災予防査察に関すること
		消防用設備等の設置指導及び検査に関すること
		建築確認等の同意に関すること
		火災の原因及び損害の調査並びに災証明に関すること
		防火安全等の意見書に関すること
		火災予防上の届出及び調査指導に関すること
		婦人防火指導員協議会及び防火協会に関すること
		予防関係の証明に関すること
		火災統計に関すること
		消防広報に関すること
		住宅防火の推進に関すること
		その他火災予防に関すること

課名	係 別	所 掌 事 務
	危険物係	石油パイプライン事業法に基づく施設の火災予防措置に関する事
		危険物施設の規制に係る許可、認可、承認等に関する事
		危険物安全協会に関する事
警 防 課	警防係	消防応援協定に関する事
		消防水利及び消防車両の整備計画に関する事
		開発行為等に伴う消防施設の指導に関する事
		訓練及び技術指導に関する事
		消防機械器具の整備及び管理に関する事
		緊急消防援助隊に関する事
		国民保護計画に基づく消防活動に関する事
		機関員の育成及び技能管理に関する事
		その他警防に関する事
	救急救助係	救急業務及びその高度化に関する事
		救助業務に関する事
		応急手当の普及に関する事
		メディカルコントロール協議会に関する事
		患者等搬送事業者の認定に関する事
	指 揮 指 令 課	指揮係
災害現場での広報に関する事		
火災、水災等の警戒鎮圧の統制に関する事		
災害現場での防御活動の効果及び評価に関する事		
消防計画に関する事		
その他指揮に関する事		
指令係		災害時の関係機関との連絡に関する事
		通信機器材の保守及び管理並びに整備に関する事
		火災警報等の発令に関する事
		消防通信の運用及び技術指導に関する事
		災害通報の受付及び出動指令に関する事
		ちば消防共同指令センターに関する事
		その他通信に関する事

【消防署】

係 別	所 掌 事 務
総務係	消防署の組織に関すること
	公印の管守に関すること
	機関員の育成に関すること
	消防用機械器具等の維持管理に関すること
	その他消防に関すること
予防係	火災予防査察に関すること
	火災の原因及び損害の調査に関すること
	成田市火災予防条例等に基づく届出に関すること
	消防広報に関すること
警防係	火災防御計画の運用に関すること
	災害の警戒、警備及び防御に関すること
	救急業務に関すること
	救助業務に関すること
	訓練及び指導に関すること
	消防隊の編成に関すること
	消防水利の調査に関すること
救助係	救助業務に関すること

【分署】

係 別	所 掌 事 務
消防係	火災防御計画の運用に関すること
	災害の警戒、警備及び防御に関すること
	救急業務に関すること
	救助業務に関すること
	訓練及び指導に関すること
	消防隊の編成に関すること
	機関員の育成に関すること
	消防用機械器具等の維持管理に関すること
	消防水利の調査に関すること
	火災予防査察に関すること
	火災の原因及び損害の調査に関すること
	火災予防条例等に基づく届出に関すること
	消防広報に関すること
	その他消防に関すること
救急係	救急業務に関すること

(4) 職員の配置状況

令和2年4月1日現在

階級 配置		消防 正監	消防監	消 防 司令長	消防 司令	消 防 司令補	消防 士長	消 防 副士長	消防士	その他	合 計
		消 防 本 部	消 防 長	1							
次 長			1								1
消 防 総 務 課				2	2	2	2				8
予 防 課				2	1	4 (1)	1				8 (1)
警 防 課				1	2	2	3	1 (1)			9 (1)
指 揮 指 令 課				5	4	6	2				17
小 計		1	1	10	9	14 (1)	8	1 (1)			44 (2)
消 防 署	成 田 消 防 署		1	2	8	10 (1)	11 (1)	8 (1)	9		49 (3)
	飯 岡 分 署				2	2	2	3	3		12
	赤 坂 消 防 署			3	6	7	5	5 (1)	12 (3)		38 (4)
	公 津 分 署				4	3	5	4	3		19
	三 里 塚 消 防 署			2	7	6 (1)	4	3 (1)	5		27 (2)
	空 港 分 署				2	2	2		2		8
	大 栄 消 防 署			3	8	3	2	6	5		27
	下 総 分 署				4	4	5	2	7		22
小 計			1	10	41	37 (2)	36 (1)	31 (3)	46 (3)		202 (9)
合 計		1	2	20	50	51 (3)	44 (1)	32 (4)	46 (3)		246 (11)

※市長部局出向中の職員及び再任用の職員は除く

※（ ）内は女性消防職員の人数

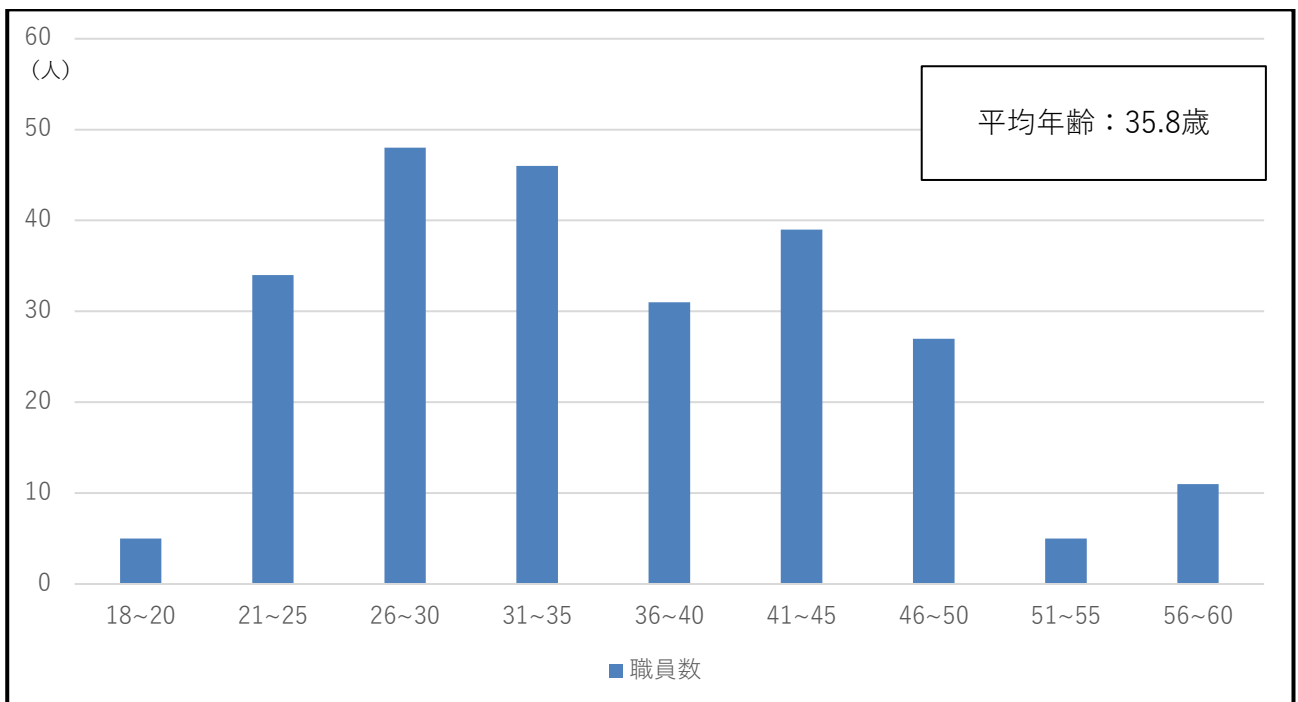
(5) 階級・年齢別消防職員数

令和2年4月1日現在

階級 年齢	消防 正監	消防監	消 防 司令長	消防 司令	消 防 司令補	消防 士長	消 防 副士長	消防士	その他	合 計
18～20								5 (1)		5 (1)
21～25								34 (2)		34 (2)
26～30						13	29 (3)	6		48 (3)
31～35					15 (2)	27 (1)	3 (1)	1		46 (4)
36～40				1	26 (1)	4				31 (1)
41～45				31	8					39
46～50			10	15	2					27
51～55			2	3						5
56～60	1	2	8							11
合 計	1	2	20	50	51 (3)	44 (1)	32 (4)	46 (3)		246 (11)

※市長部局出向中の職員及び再任用の職員は除く

※（ ）内は女性消防職員の人数



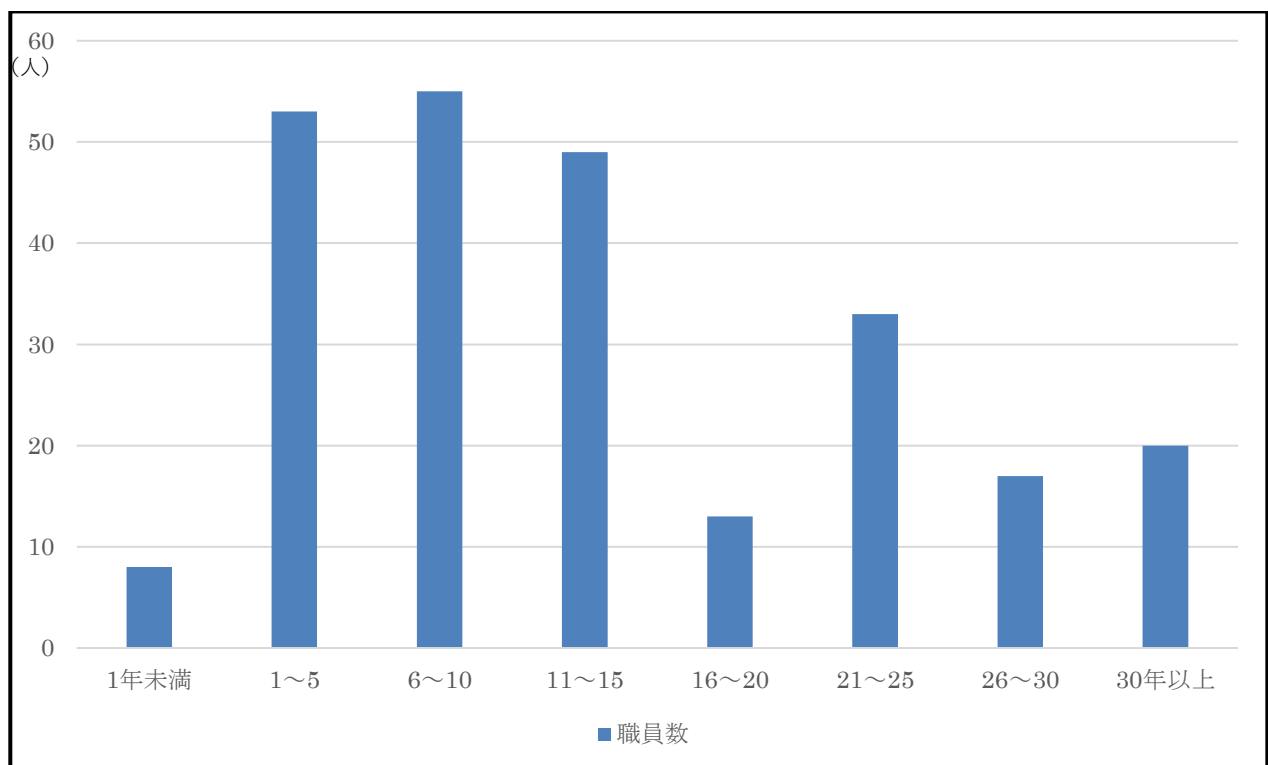
(6) 階級・勤続年数別消防職員数

令和2年4月1日現在

階級 勤続年数	消防 正監	消防監	消 防 司令長	消防 司令	消 防 司令補	消防 士長	消 防 副士長	消防士	その他	合 計
1年未満								8 (1)		8 (1)
1～5						1	10	26 (2)		37 (2)
6～10						27	22 (4)	12		61 (4)
11～15				3	36 (3)	16 (1)				55 (4)
16～20				8	7					15
21～25				18	7					25
26～30			8	19	1					28
30年以上	1	2	12	2						17
合 計	1	2	20	50	51 (3)	44 (1)	32 (4)	46 (3)		246 (11)

※市長部局出向中の職員及び再任用の職員は除く

※（ ）内は女性消防職員の数



2 消防職員の教育研修実施状況

(1) 消防大学校・千葉県消防学校・救急振興財団

実施機関	教育課程	期名	教育期間	人数
消防大学校	総合教育 幹部科	第 58 期	47 日	1 人
	査察業務マネジメントコース	第 3 回	5 日	1 人
千葉県消防学校	初任教育 初任科	第 168 期	111 日	6 人
	専科教育 特殊災害科	第 15 期	10 日	2 人
	専科教育 予防査察科	第 14 期	11 日	1 人
	専科教育 救急科	第 45 期	41 日	3 人
		第 46 期	41 日	3 人
	専科教育 救助科	第 48 期	23 日	2 人
	特別教育 訓練指導科	第 45 期	10 日	2 人
	特別教育 はしご自動車等講習会	第 30 回	4 日	1 人
特別教育 高度救助科	第 1 期	10 日	2 人	
救急振興財団	指導救命士養成研修 (九州研修所)	第 1 期	30 日	1 人
	救命士新規養成課程 (東京研修所)	第 56 期	128 日	1 人

(2) 資格技能研修

種 別	研修日数	人数	種 別	研修日数	人数
2級小型船舶	3日	2人	酸素欠乏・硫化水素 危険作業主任者講習	3日	1人
小型移動式クレーン 運転技能講習	3日	4人	フルハーネス型墜落制止 用器具使用作業特別教育	1日	2人
玉掛技能講習	3日	4人			

(3) その他の外部研修

研修名	研修日数	人数	研修名	研修日数	人数
企業防災対策指導研修会	1日	1人	救急隊員学術研究会	1日	1人
危険物施設安全推進講演会	1日	1人	千葉県救急医療研究会	1日	2人
危険物保安技術講習会	1日	2人	エマルゴトレーニング	1日	5人
火災調査研究発表会	1日	12人	JPTEC プロバイダー コース	1日	2人
調査技術会議	1日	2人			

3 成田市の予算と消防予算

(1) 市一般会計と消防費の比較

年度		区分	市一般会計 (千円)	消防費 (千円)	構成比 (%)
令和元年度	当初予算		60,600,000	2,643,506	4.4
	決算		60,383,352	2,692,155	4.5
令和2年度	当初予算		62,800,000	2,654,620	4.2
	決算		-	-	-

(2) 消防予算と人口・世帯数の比較

年度	区分	消防予算 (千円)	人口 (人)	世帯数	負担額	
					市民一人当たり (円)	1世帯当たり (円)
令和元年度		2,643,506	132,883	62,582	19,893	42,241
令和2年度		2,654,620	133,161	63,636	19,935	41,716
増減比 (▲)		11,114	278	1,054	42	▲525

※人口・世帯数は各年4月1日の数値

(3) 歳出予算額の比較

区分	年度	常備消防費 (千円)	非常備消防費 (千円)	消防施設費 (千円)	歳出額計 (千円)
	令和元年度	2,415,342	169,390	58,774	2,643,506
	令和2年度	2,393,542	189,470	71,608	2,654,620
	増減比 (▲)	▲21,800	20,080	12,834	11,114

4 消防署の施設見学状況

令和元年度

区分	幼稚園等		小学校		子供会		その他(団体)	
	回	人数	回	人数	回	人数	回	人数
成田消防署			8	386			1	36
飯岡分署			1	78				
赤坂消防署			15	864			1	18
公津分署	1	22	7	524				
三里塚消防署			6	257			1	37
空港分署								
大栄消防署			5	144				
下総分署			3	47				
合計	1	22	45	2,300			3	91

合計 49 回

人員 2,413 名

5 消防職員表彰状況

令和元年度

表彰別	階級別	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
消防庁長官永年勤続功労章		1	1							2
千葉県知事永年勤続功労章			1							1
千葉県消防協会長永年勤続章				1	8	2				11
日本消防協会長勤続章				1						1
千葉県知事功労章					5	2				7
千葉県知事精勤章						4				4
防災危機管理部長章								5	1	6
合計		1	2	2	13	8		5	1	32

6 消防音楽隊

成田市消防音楽隊は、昭和44年4月1日に発足しました。消防出初式や千葉県消防音楽隊フェスティバルを始め、市内で開催される各種イベントへも積極的に出演し、救急車の適正利用や火災予防の啓発等、音楽を通じて消防に関する広報活動を行っています。

【音楽隊の編成】

令和2年4月1日現在

階級	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
人数	6	4	3	6	4	23

※定数23名（市長部局及び共同指令センター出向中の職員2名は定数外）

【出演実績】

回数	年月日	イベント名	場所
1	平成31年4月6日	第18回成田空港旗杯少年野球大会	ナスパスタジアム
2	平成31年4月28日	第34回北総地区少年野球大会	ナスパスタジアム
3	令和元年5月18日	第15回千葉ロッテマリーンズ成田後援会旗杯少年野球大会	ナスパスタジアム
4	令和元年6月30日	第39回（公財）千葉県消防協会印旛支部消防操法大会	町民Cグラウンド（栄町）
5	令和元年8月24日	成田ふるさとまつり2019	ボンベルタ周辺
6	令和元年9月13日	第34回千葉県ゆうあいピックソフトボール選手権大会	中台運動公園野球場
7	令和元年11月3日	第35回千葉県少年野球選手権大会（ろうきん旗大会）	ナスパスタジアム
8	令和元年11月10日	成田POPラン大会	中台運動公園陸上競技場
9	令和元年11月10日	防火フェスタ2019	ユアエルム中央広場
10	令和元年11月16日	第39回成田市産業まつり	成田国際文化会館
11	令和元年11月23日	なんじゃもんじゃいきいき発酵フェスティバル2019	神崎ふれあいプラザ
12	令和元年11月23日	大栄ふるさとふれあいまつり	日本自動車大学校
13	令和元年11月30日	第41回千葉県消防音楽隊フェスティバル	船橋アリーナ
14	令和元年12月1日	第35回成田山新勝寺杯少年サッカー大会	中台運動公園陸上競技場
15	令和2年1月13日	令和2年神崎町消防団出初式	神崎ふれあいプラザ
16	令和2年2月9日	令和2年成田市消防出初式	成田国際文化会館
17	令和2年2月15日	シルバー祭り「2020」	赤坂ふれあいセンター

7 応援協定・業務協定

千葉県広域消防相互応援協定

平成4年4月1日

千葉県下の市町村及び一部事務組合が、大規模災害及び産業災害等の予防・鎮圧に万全を期し、併せて民心の安定を図るため応援体制を確立し、不測の事態に対処することを目的に締結した。

東関東自動車道及び新空港自動車道消防相互応援協定

昭和62年11月20日

協定区域において、火災・救急事故及びその他の災害が発生した場合において、協定市町村等の相互間及び日本道路公団の消防力を活用して、災害による被害を軽減することを目的に締結した。

成田国際空港消防相互応援協定

昭和53年3月18日

空港及びその周辺における航空機に関する災害又はその発生のおそれがある事態に際し、相互の緊密な協力のもとに消火救難活動を実施し、被害の防止又は軽減を図ることを目的に締結した。

成田国際空港及び成田市の区域における消火救難活動に関する協定

昭和53年3月18日

空港及び成田市の区域における航空機に関する火災、若しくは空港におけるその他の火災又はそれらの火災発生のおそれがある事態に際し、緊密な協力のもとに一貫した消火救難活動を実施し、被害の防止又は軽減を図ることを目的に締結した。

救急救命士業務に係る救急救命処置に関する覚書

平成6年3月31日

救急救命士法に規定する医師の具体的な指示を受け、的確な救急救命処置を行えることを目的に締結した。

心電図伝送装置等の受信装置の使用に関する協定

平成7年3月31日

心電図伝送装置等の受信装置を使用して、的確な救急救命処置を行えることを目的に締結した。

成田市・富里市消防相互応援協定

平成11年6月1日

協定区域内において火災、救急及びその他の災害が発生した場合において、相互の消防力を活用して災害による被害を軽減することを目的に締結した。

(昭和55年3月1日に締結した消防業務協定は廃止)

成田市・芝山町・山武郡市広域行政組合消防相互応援協定

平成11年8月1日

協定区域内における火災、救急事故及びその他の災害に際して、相互の消防力を活用して災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的に締結した。

香取郡神崎町・成田市消防事務の委託に関する附属協定

平成18年1月19日

香取郡神崎町と成田市との間における消防事務の委託に関する協定を締結した。

鉄道災害時における鉄道軌道事業者と消防機関との連携に関する協定

平成21年3月31日

千葉県において鉄道災害が発生し、又は発生するおそれのある場合に対応するため、千葉県内の消防本部と鉄道軌道事業者及び千葉県が協定を締結した。

成田市・稲敷地方広域市町村圏事務組合消防相互応援協定

平成21年10月30日

協定区域内において火災、救急及びその他の災害が発生した場合において、相互の消防力を活用して災害による被害を軽減することを目的に締結した。

成田市・栄町消防相互応援協定

平成25年1月25日

協定区域内において火災、救急及びその他の災害が発生した場合において、相互の消防力を活用して災害による被害を軽減することを目的に締結した。

ちば消防共同指令センターにおける千葉県広域消防相互応援協定（平成4年4月1日締結）第2条第1号に定める普通応援の運用に係る覚書

平成25年3月29日

千葉市外10市1町8一部事務組合消防指令事務協議会を構成する市町村及び一部事務組合の地域内で災害が発生した場合において、災害地点の地域に接する構成市町村等からの応援出動（隣接市町村等応援）について必要な事項を定めることを目的に締結した。

大栄 JCT～稲敷東 IC 首都圏中央連絡自動車道消防相互応援協定

平成 27 年 6 月 7 日

協定区域内において火災、救急事故及びその他の災害が発生した場合において、協定市町村等（成田市、神崎町、稲敷地方広域市町村圏事務組合）の相互間及び東日本高速道路株式会社の消防力を活用して、災害による被害を軽減することを目的に締結した。

災害時における消防用水等の供給支援に関する協定

平成 30 年 8 月 8 日

大規模火災発生時等において消防用水が不足した場合、コンクリートミキサー車による消防用水の供給支援を要請し、大規模火災発生時等における消防用水の不足に備えることを目的に、千葉県北総生コンクリート協同組合と締結した。

成田市・印西地区消防組合消防相互応援協定

平成 31 年 3 月 28 日

協定区域内において、火災、救急事故、その他の災害が発生した場合に、消防力を相互に活用し、災害による被害を最小限度に防止することを目的に締結した。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 消防・救急体制整備に関する応援協定

令和 2 年 3 月 19 日

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の実施に伴い、成田国際空港及びその周辺に係る消防の応援について必要な事項を定め、大会の成功に万全を期することを目的に、八千代市及び千葉県消防長会第 2 ブロック構成消防本部と締結した。

成田市消防委員会



令和元年度第2回消防委員会

成田市消防委員会

成田市消防委員会は、本市消防の充実発展と消防行政の円滑な運営を図るため、市長の諮問に答え又は建議する機関です。

委員は消防関係者及び識見を有する者の11名以内で組織することとし、任期は2年とされています。

【令和元年度事業】

月 日	事 業 名	事 業 内 容
6月21日	第1回消防委員会	令和元年度主要事業の報告等
12月10日	第2回消防委員会	台風15号等による風水害への対応報告等
3月17日	第3回消防委員会	令和2年度消防費当初予算の概要説明等

成田市消防団



成田市消防団第12分団第1部（一坪田）
第55回千葉県消防操法大会小型ポンプの部努力賞

1 成田市消防団の概要

成田市消防団は、成田市の誕生とともに昭和29年3月に発足しました。

地域防災の要として日々活動する消防団は、令和2年4月1日現在、条例定数1,535名に対し実員1,422名で活動しています。

また、平成29年4月1日より活動を開始した女性部は、成田市消防団の新たな原動力として、女性ならではの視点に立ち、応急手当普及員の資格を取得し、救急講習や各行事へ積極的に参加するなど、その活躍の場を広げています。

【階級別消防団員数】

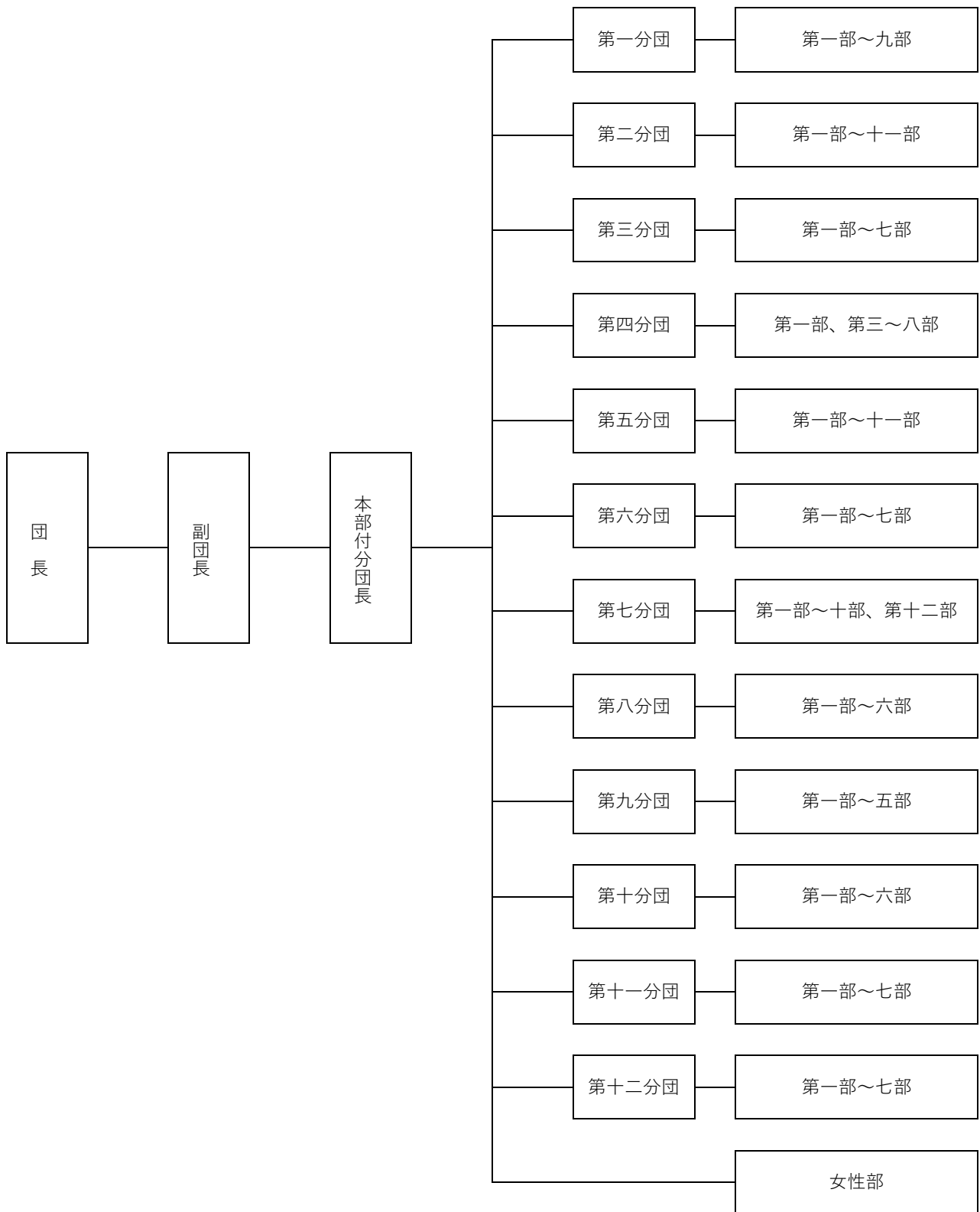
令和2年4月1日現在

階級	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
団員数	1	3	18	12	95	189	1,104	1,422
			(うち女性)		1	2	24	27

～歴代消防団長～

	任命年月	氏名
初代	昭和29年(1954年)3月～	長谷川 謹二
二代	昭和44年(1969年)4月～	中村 善平
三代	昭和60年(1985年)4月～	大木 忠一
四代	平成元年(1989年)4月～	長谷川 良三
五代	平成9年(1997年)4月～	佐久間 猛夫
六代	平成11年(1999年)4月～	大塚 勝彦
七代	平成15年(2003年)4月～	穴倉 日出夫
八代	平成19年(2007年)4月～	大澤 満彦
九代	平成21年(2009年)4月～	佐藤 弘
十代	平成23年(2011年)4月～	小川 繁
十一代	平成25年(2013年)4月～	村島 義則
十二代	令和2年(2020年)4月～	湯浅 雅明

2 成田市消防団の組織図



3 消防団の配置状況

令和2年4月1日現在

分団	管轄地区	部数	団員数
本部	—	—	10
第一分団	成田	9ヶ部	148
第二分団	公津	11ヶ部	177
第三分団	八生	7ヶ部	109
第四分団	中郷	7ヶ部	92
第五分団	久住	11ヶ部	139
第六分団	豊住	7ヶ部	83
第七分団	遠山	11ヶ部	149
第八分団	滑川・小御門	6ヶ部	112
第九分団	高岡・名木	5ヶ部	92
第十分団	大須賀・桜田	6ヶ部	95
第十一分団	津富浦	7ヶ部	90
第十二分団	前林・川上	7ヶ部	99
女性部	—	1ヶ部	27
合計		95ヶ部	1,422

※女性部は管轄地区を持たず活動しています

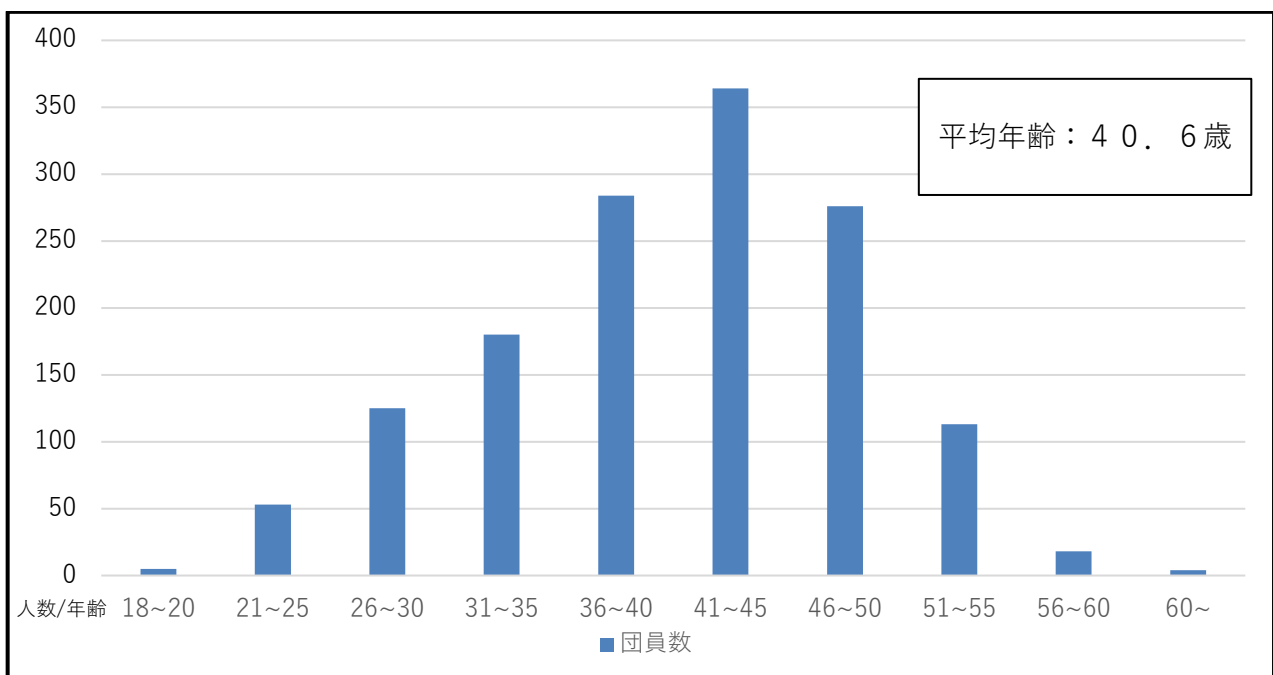
4 階級・年齢別消防団員数

令和2年4月1日現在

階級 年齢	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
18~20							5 (3)	5 (3)
21~25						2 (1)	51 (10)	53 (11)
26~30					3	5	117 (3)	125 (3)
31~35					8	34 (1)	138	180 (1)
36~40				1	36	68	179 (1)	284 (1)
41~45			3	10	25	51	275 (2)	364 (2)
46~50			10	1	18 (1)	19	228 (4)	276 (5)
51~55		1	5		5	8	94 (1)	113 (1)
56~60		1				2	15	18
61以上	1	1					2	4
合 計	1	3	18	12	95 (1)	189 (2)	1,104 (24)	1,422 (27)

※ () 内は女性団員の人数

【年齢区分別消防団員数】



5 消防団の車両配置状況

成田市消防団は、消防ポンプ自動車20台（うち水槽付1台）、小型動力ポンプ付積載車74台を配備しています。各分団への配備状況は下表のとおりです。

令和2年4月1日現在

分団	配置車両 消防ポンプ 自動車	消防ポンプ 自動車 (水槽付)	小型動力 ポンプ付 積載車	合 計
本部	—	—	—	—
第一分団	6		3	9
第二分団	4		7	11
第三分団	2		5	7
第四分団	2		5	7
第五分団	1		10	11
第六分団	1		6	7
第七分団		1	10	11
第八分団	2		4	6
第九分団			5	5
第十分団	1		5	6
第十一分団			7	7
第十二分団			7	7
女性部	—	—	—	—
合 計	19	1	74	94

※女性部には車両を配備していません

6 消防団員の表彰状況

令和元年度

項目	階級							
	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
藍綬褒章								
消防庁長官功労賞								
消防庁長官永年勤続功労章			1					1
千葉県知事文化功労章								
千葉県知事特別功労賞								
千葉県知事永年勤続功労章								
千葉県消防協会永年勤続章								
日本消防協会長功績賞								
日本消防協会長勤続章			1					1
日本消防協会長精績章			2					2
千葉県消防協会長功績賞			2					2
千葉県知事功労賞			1	1			4	6
千葉県消防協会長功労賞			1	3			2	6
千葉県知事精勤章				1		3	13	17
千葉県消防協会長精勤章				4	1		14	19
防災危機管理部長章				1	3	5	14	23
印旛支部長功労賞						1	18	19
印旛支部長勤続章					5		14	19
印旛支部長精勤章					5	7	36	48
成田市長章					8	12	29	49
成田市消防団長章					9	9	26	44
合計			8	10	31	37	170	256

火 災 予 防

令和元年度防火ポスター入賞作品



市長賞（小学校低学年の部）
加良部小学校 2年
小林 和貴 さん



市長賞（小学校高学年の部）
成田小学校 6年
高松 俊太 さん



市長賞（中学校の部）
成田高等学校附属中学校 3年
木村 百花 さん

1 防火対象物の現況

令和2年4月1日現在

用途	区分	対象物の別	合 計	
				神崎町
1	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	6	
	ロ	公会堂又は集会場	153	5
2	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブに類するもの	1	
	ロ	遊技場又はダンスホール	8	1
	ハ	風俗営業等に関する法律、その他総務省令で定めるもの		
	ニ	カラオケボックス、その他個室施設	7	
3	イ	待合・料理店の類	11	
	ロ	飲食店	223	4
4		百貨店・マーケット・その他物品販売店舗展示場	258	5
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	85	
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	2,050	11
6	イ	病院・診療所・助産所	89	1
	ロ	主として要介護状態にある者又は重度の障害者等が入所する施設、救護所、乳児院、認知症高齢者グループホーム等	53	3
	ハ	老人介護施設、有料老人ホーム（（6）項ロに該当する者は除く。）障害者福祉サービス事業を行う施設等	105	3
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	16	5
7		小学校・中学校・高等学校・大学・各種学校の類	253	7
8		図書館・博物館・美術館の類	10	
9	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場の類	4	
	ロ	イに掲げる以外の公衆浴場	3	
10		車両の停車場・船舶もしくは航空機の発着場	7	1
11		神社・寺院・教会の類	109	3
12	イ	工場・作業所	532	56
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ		
13	イ	自動車車庫・駐車場	105	2
	ロ	飛行機・回転翼航空機の格納庫	7	
14		倉庫	460	18
15		前各項に該当しない事業所	1,057	23
16	イ	一部が1項～4項、5項イ、6項、9項イの複合用途	568	5
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	316	1
16の2		地下街		
16の3		16の2を除く、連続して地下道に面したもの		
17		重要文化財・重要有形民俗文化財・史跡等の建造物	3	
18		延長50メートル以上のアーケード		
19		市町村長の指定する山林		
20		総務省令で定める舟車		
合 計			6,499	154

※いずれも延べ面積が150㎡以上のもの

2 用途別中高層建物数

令和2年4月1日現在

用途	階数	3階以下	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計
		15m以上															
1	イ	2															2
	ロ	3															3
2	イ																
	ロ																
	ハ																
	ニ																
3	イ																
	ロ	2	2														4
4		10	4														14
5	イ	3	4	3	2	1	1	3	3	5	1	2	2	1		1	32
	ロ		62 (1)	237	9	9	5	3	11	3	2	5	8	3			357 (1)
6	イ		2	2	2	1	3										10
	ロ		2														2
	ハ			2													2
	ニ																
7		12	13	3	1			1		1							31
8		1															1
9	イ																
	ロ	1															1
10		2															2
11		5	1	2													8
12	イ	17 (1)	14	6	1	1											39 (1)
	ロ																
13	イ	7	2	3	2												14
	ロ	4	1	1													6
14		9 (1)	2	1	2												14 (1)
15		13 (1)	30 (1)	8	5	5	4		1					1			67 (2)
16	イ	7	35	15	7	5	2	4	1					1			77
	ロ	5	8	7	3	1	2						1		1		28
17		3															3
計		106 (3)	182 (2)	290	34	23	17	11	16	9	3	7	11	6	1	1	717 (5)

※ () 内は神崎町の数値

3 地区別中高層建物数

令和2年4月1日現在

地区	階数 3階以下 15m以上	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計
成田	33	62	43	9	10	5	5	4	2		3	5	2			183
公津	6	13	2	8	4	3	4	3	1	2	2	2	3			53
八生	3	4				1										8
中郷	1															1
久住	9	2			1											12
豊住	4	1														5
遠山	7	19	12	3	1	2	2	2	3	1	2	1			1	56
NT	12	50	221	4	2	3		7	3			3				305
空港内	23	19	9	7	4	3							1	1		67
大栄	1	8	3	1												13
下総	4	2		2	1											9
成田市 合計	103	180	290	34	23	17	11	16	9	3	7	11	6	1	1	712
神崎町	3	2														5
計	106	182	290	34	23	17	11	16	9	3	7	11	6	1	1	717

4 立入検査実施状況

令和元年度中

月別 用途		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	イ												
	ロ			2		1	1		1			1	
2	イ												
	ロ												
	ハ												
	ニ			1									
3	イ		1			1							
	ロ	1	4	8		3	2		3	4	4		
4		1	4	1	1	1	1	3	3	2	4	1	
5	イ	4	9	4	1	6			1	1	4	1	
	ロ				1					1		1	
6	イ			1		2		4	6		1	6	
	ロ	2	1		3		2	5	3	11	3	4	
	ハ	7		5	17	6	3	6	1	10	11	3	
	ニ			8	2								
7			1	1				7	2		1	7	
8						1							
9	イ												
	ロ										1		
10													
11								33	3				
12	イ	4		3	5	5	2	5			10	6	
	ロ												
13	イ	1			3			2	1			3	
	ロ												
14		2		9	15	2	1	2	1	1	10	4	
15		7	9	21	7	4	8	13	4	3	11	13	
16	イ	4	5	13	10	15	1	7	10	5	6	9	
	ロ	1	1										
16の2													
16の3													
17								5				1	
18													
19													
20													
危険物施設			38	5		1	21	75		6	7		
合計		34	73	82	65	48	42	167	39	44	73	60	0

5 危険物施設の現況

令和2年4月1日現在

区 分		施 設 数	
		神崎町	
製 造 所		11	2
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	63	6
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	51	6
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	12	1
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	121	10
	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	1	
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	87	1
	屋 外 貯 蔵 所	19	3
取 扱 所	給 油 取 扱 所	109	3
	第 1 種 販 売 取 扱 所		
	第 2 種 販 売 取 扱 所		
	移 送 取 扱 所		
	一 般 取 扱 所	95	3
合 計		569	35

6 危険物施設事務処理状況

令和元年度中

区 分		届 出 件 数	
		神崎町	
設 置 許 可	製 造 所		
	貯 蔵 所	5	
	取 扱 所	2	
変 更 許 可	製 造 所	10	1
	貯 蔵 所	16	
	取 扱 所	45	
完 成 検 査	製 造 所	7	1
	貯 蔵 所	22	
	取 扱 所	45	
譲 渡 引 渡	製 造 所		
	貯 蔵 所	4	
	取 扱 所	2	
廃 止 届 出	製 造 所		
	貯 蔵 所	5	
	取 扱 所	4	
水 圧 水 張 検 査		10	
予 防 規 程		10	
仮 使 用 承 認		42	2
資 料 提 出		91	6
保 安 監 督 者 選 解 任 届		34	2
合 計		354	12

7 各種届出の処理状況

令和元年度中

項目	届出の種別	届出件数	
			神崎町
防火管理関係	防火管理者選解任届出	418	10
	消防計画届出（防火）	451	11
	防火対象物点検結果報告	232	1
	消防用設備等点検結果報告	2195	32
	防災管理者選解任届出	200	
	消防計画届出（防災）	214	
	統括防火管理者選解任届出	7	
	統括防災管理者選解任届出	9	
	全体についての消防計画届出	15	
	防災管理点検結果報告	166	
	自衛消防組織設置変更届出	14	
消防用設備関係	消防用設備等着工届出	274	4
	消防用設備等設置届出	1042	11
	消防用設備等検査済証	69	
火災予防条例関係	防火対象物使用開始届出	316	3
	火を使用する設備等の設置届出	42	3
	燃料電池・発電・変電・蓄電池設備設置届出	87	1
	ネオン管灯設備設置届出		
	水素ガスを充填する気球の設置届出		
	催物開催届出	4	
	禁止行為の解除承認申請	16	
	露店等の開設届出	81	8
	少量危険物、指定可燃物、貯蔵取扱い届出	50	
	少量危険物、指定可燃物、貯蔵取扱い廃止届出	41	
その他	圧縮アセチレンガス等届出	26	
	自衛消防訓練通知	973	28
	り災証明申請	38	
合 計		6980	112

8 建築同意の処理状況

令和元年度中 ※（ ）内は神崎町の数値

新築	増築	改築	移転	修繕	模様替え	用途変更	その他	合計
189	17					10		216
()	()	()	()	()	()	()	()	()

火 災



令和2年2月成田市消防出初式

1 火災の概要

区 分		平成 30 年	令和元年	増減比 (▲)
火災件数 (件)	建 物	29	31	2
	林 野	8	5	▲3
	車 両	7	6	▲1
	航空機			
	船 舶			
	その他	18	24	6
	合 計	62	66	4
焼損棟数 (棟)	全 焼	11	9	▲2
	半 焼	1	2	1
	部分焼	6	8	2
	ぼ や	15	19	4
	合 計	33	38	5
建物焼損面積 (㎡)		881.97	4,074.25	3,192.28
林野焼損面積 (a)		45.45	23.58	▲21.87
車両焼損台数 (台)		9	6	▲3
航空機焼損機数 (機)				
船舶焼損隻数 (隻)				
死傷者 (人)	死 者	2	2	
	負傷者	5	6	1
り災世帯 (世帯)		11	14	3
り災人員 (人)		33	35	2
損害額 (千円)	建 物	72,179	302,276	230,097
	林 野		70	70
	車 両	3,062	190	▲2,872
	航空機			
	船 舶			
	その他	1,314	8,842	7,528
	合 計	76,555	311,378	234,823
出火率 (人口 1 万人あたりの件数)		4.44	4.76	0.32

2 出火件数

令和元年中の出火件数は66件で、約6日に1件の割合で火災が発生したことになります。

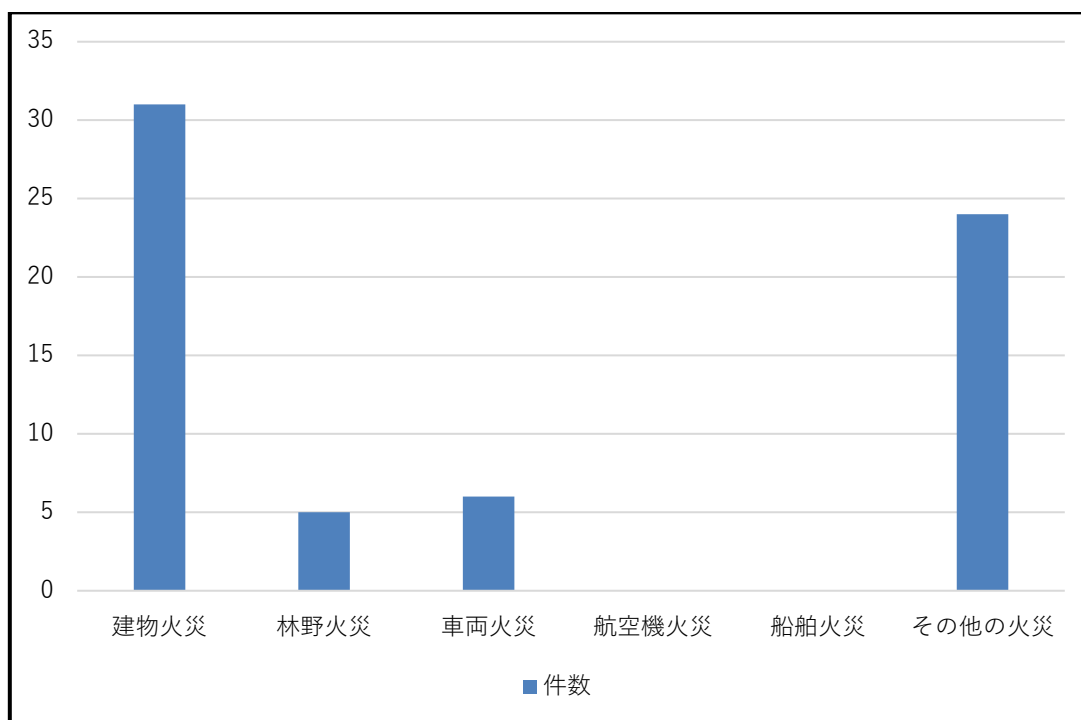
また、火災を建物・林野・車両・航空機・船舶・その他の火災に分類し、その構成比についてみると、建物火災の割合が最も多く全火災の47.0%を占めており、次いでその他の火災が36.4%、車両火災が9.1%、林野火災が7.6%の順となっています。

(1) 火災種別ごとの出火件数

令和元年中

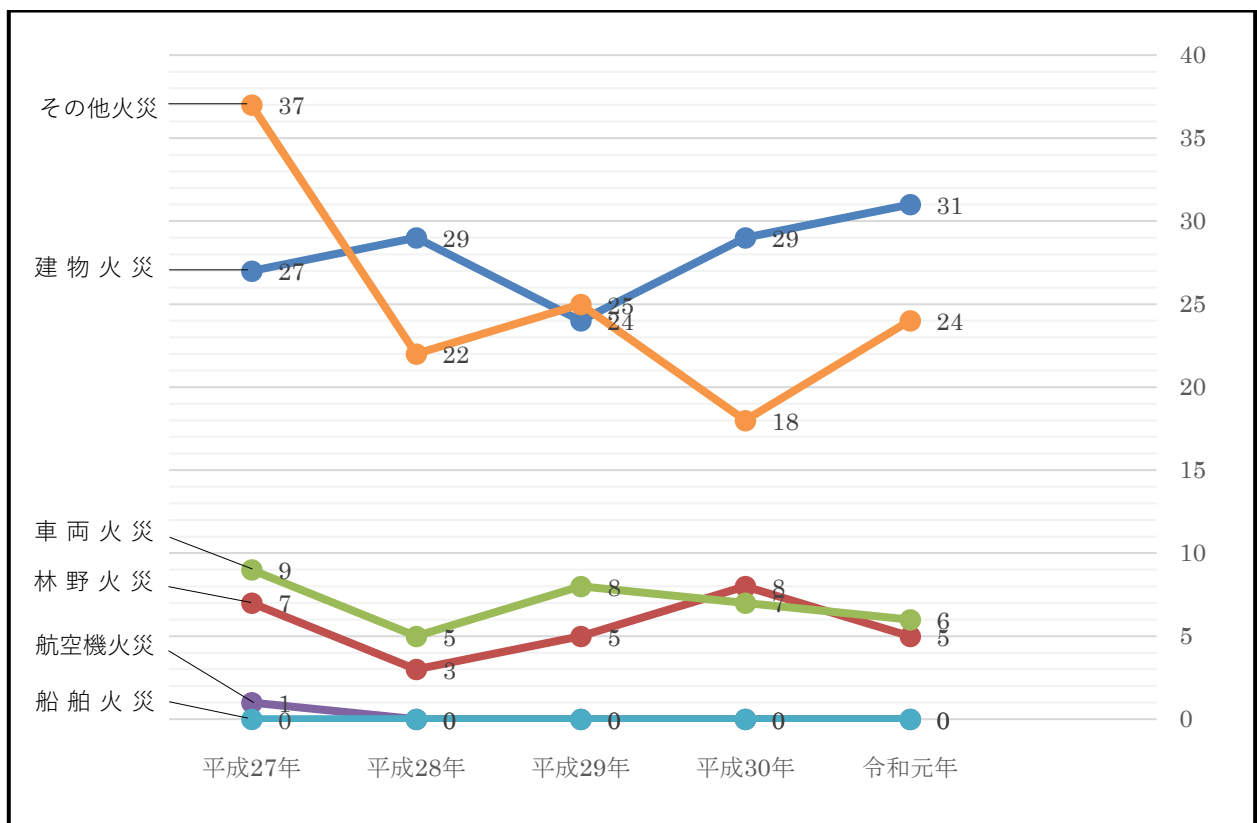
火災種別	出火件数 (件)	割合 (%)
建物火災	31	47.0
林野火災	5	7.6
車両火災	6	9.1
航空機火災		
船舶火災		
その他の火災	24	36.4
合計	66	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。



(2) 火災種別ごとの出火件数の推移（過去5年間）

種別 \ 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
建物火災	27	29	24	29	31
林野火災	7	3	5	8	5
車両火災	9	5	8	7	6
航空機火災	1				
船舶火災					
その他の火災	37	22	25	18	24
合 計	81	59	62	62	66



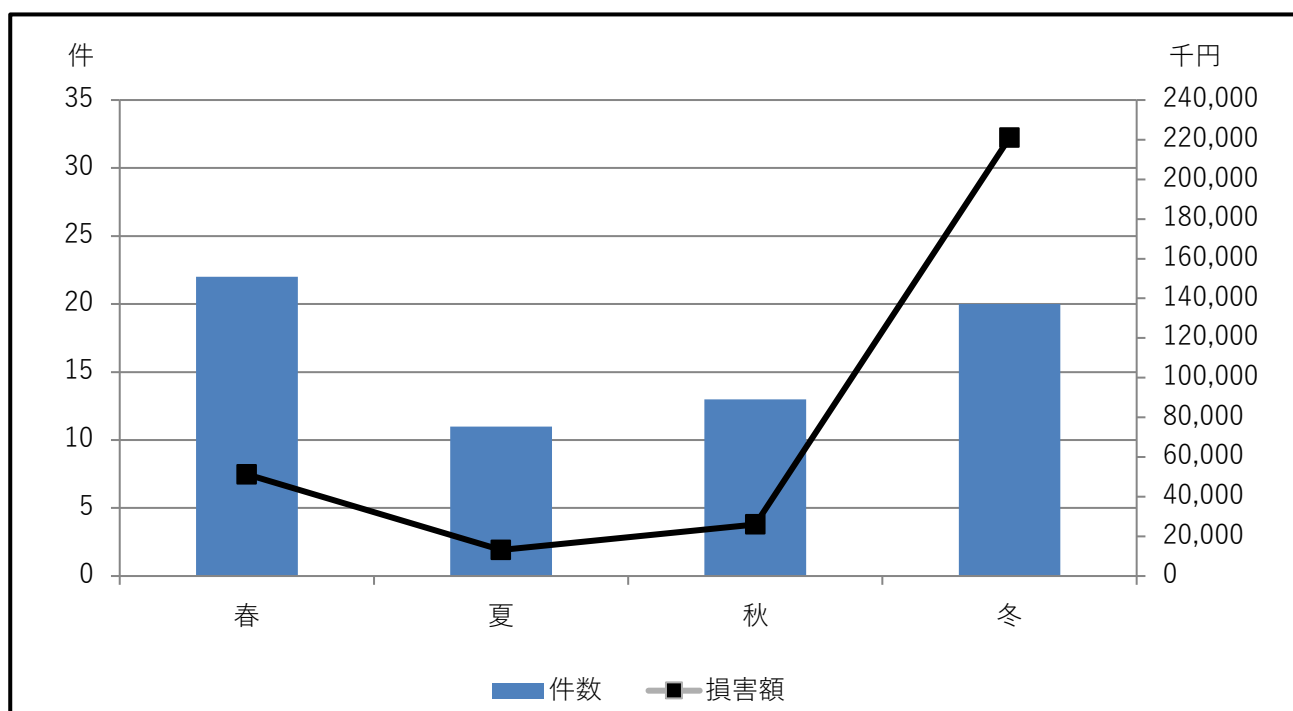
(3) 四季別出火状況

出火件数を四季別にみると、春季の火災が年間の33.3%を占め最も多く、次いで冬季が30.3%、秋季が19.7%、夏季が16.7%の順となっています。

また、損害額をみると、冬季の火災の損害額が全体の71.0%を占め最も多くなっています。

区 分 四 季 別	出火件数 (件)	割 合 (%)	損害額 (千円)	割 合 (%)
春 季 (3月から5月)	22	33.3	51,283	16.5
夏 季 (6月から8月)	11	16.7	13,145	4.2
秋 季 (9月から11月)	13	19.7	25,996	8.3
冬 季 (12月から2月)	20	30.3	220,954	71.0
合 計	66	100	311,378	100

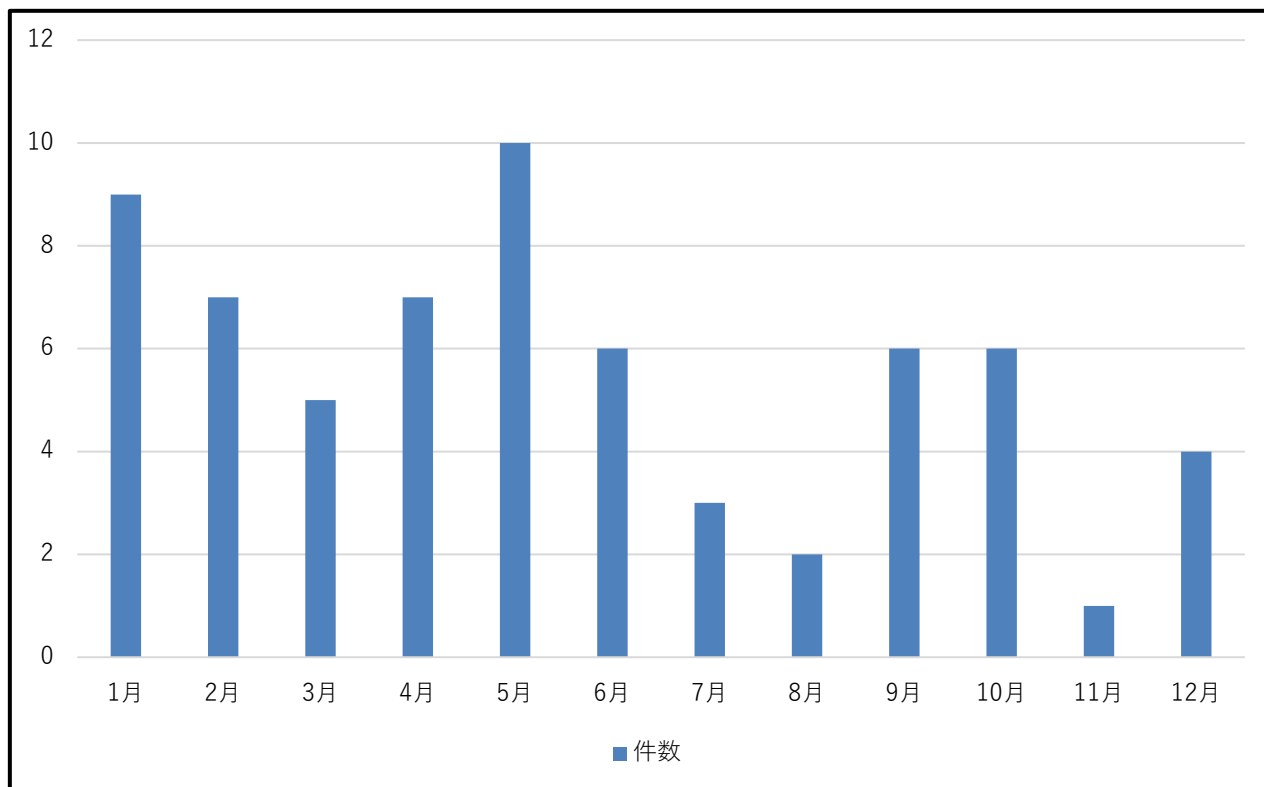
※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。



(4) 月別出火件数

令和元年中に発生した火災の出火件数を月別で見ると、5月が10件で最も多く、次いで1月が9件となっています。

種別 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
建 物	2	4	1	5	5	3	3		1	3	1	3
林 野	1		2	1	1							
車 両					1	1		1	2			1
航空機												
船 舶												
その他	6	3	2	1	3	2		1	3	3		
合 計	9	7	5	7	10	6	3	2	6	6	1	4



(5) 時間別出火件数

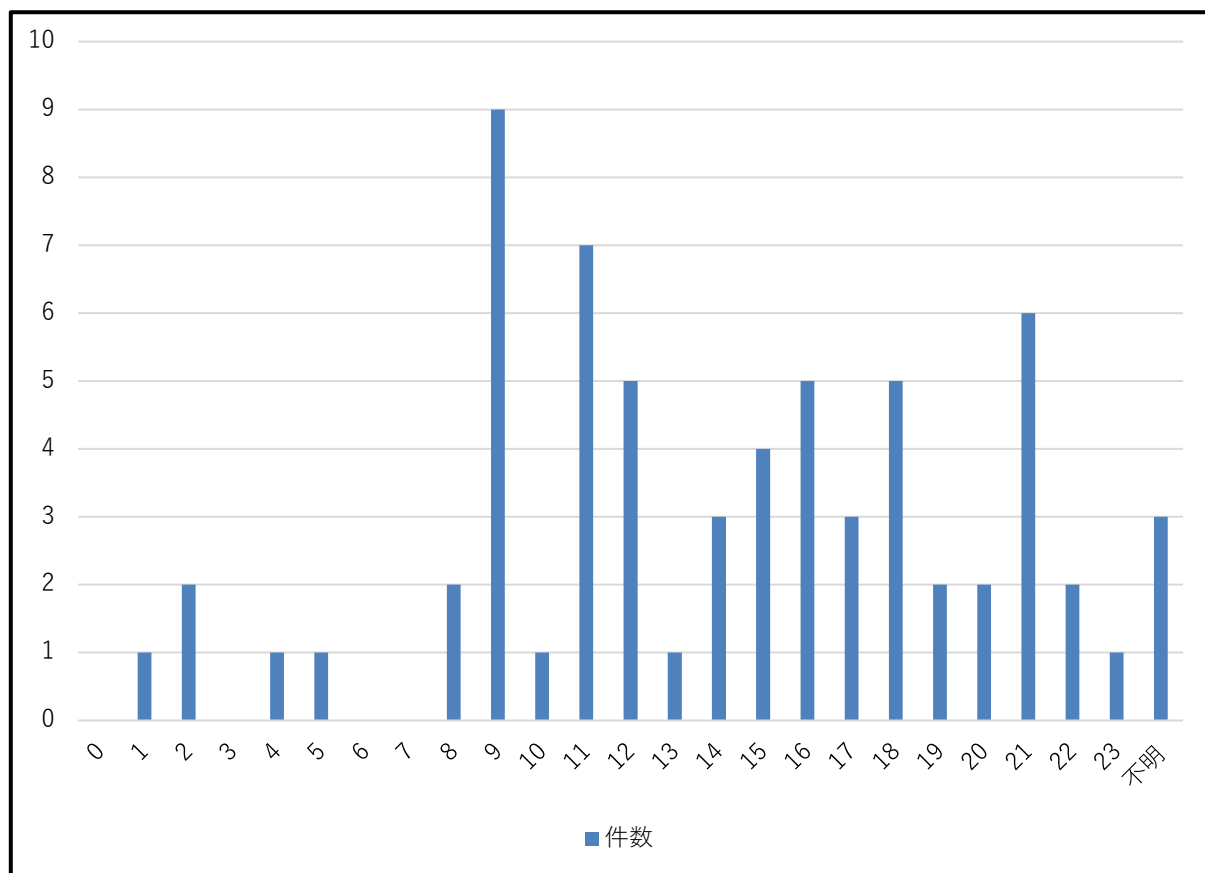
時間別の火災発生件数をみると、9時台が9件と最も多くなっており、時間帯別にみると、昼間の発生件数が37件と全体の半数以上を占めています。

昼夜別出火件数

時間帯別	令和元年（件）	割合（％）
昼間（7：00 から 17：00）	37	56.1
夜間（17：00 から 7：00）	26	39.4
不 明	3	4.5
合 計	66	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(時間別の火災発生件数)



(6) 地区別出火件数・出火率・人口及び世帯数

地区別の出火件数をみると、大栄地区が15件で最も多くなっており、出火率（人口1万人当たりの出火件数の割合）でみると、豊住地区が29.0%で最も高くなっています。

地区別 \ 区分	出火件数 (件)	出火率 (%)	建物火災 (件)	人口 (人)	世帯数 (戸)
成 田	10	4.9	6	20,529	10,949
公 津	4	1.2	3	32,372	14,646
八 生	7	21.5	1	3,263	1,425
中 郷				1,225	496
久 住	3	5.9	2	5,049	1,915
豊 住	5	29.0	1	1,724	732
遠 山	7	3.6	4	19,230	10,098
ニュータウン	6	1.9	2	31,799	15,062
下 総	2	3.0		6,599	2,852
大 栄	15	13.7	7	10,945	4,733
神 崎 町	1	1.7		6,024	2,483
空 港 内	6		5		
東関東自動車道 新空港自動車道					
合 計	66		31	138,759	65,391

※人口・世帯数は令和元年12月末現在

(7) 署別出火件数・出火種別

署別出火件数は、赤坂消防署が17件で最も多くなっています。

区 分 署 別	出火件数 (件)	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	構成比 (%)
成 田 消 防 署	11	7	1	2			1	16.7
飯 岡 分 署	7	2	2				3	10.6
赤 坂 消 防 署	17	6		1			10	25.8
公 津 分 署	2	1					1	3.0
三 里 塚 消 防 署	7	5		1			1	10.6
空 港 分 署	4	3		1				6.1
大 栄 消 防 署	15	7	1				7	22.7
下 総 分 署	3		1	1			1	4.5
合 計	66	31	5	6			24	100

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(8) 初期消火の状況

初期消火の状況を見ると、出火件数66件のうち43件で初期消火が行われており、初期消火の実施率は65.1%でした。

出火件数	初期消火 実施件数	簡易消火器具		消火器		固定消火器具		その他		初期消火なし	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
66	43			14	21.2			29	43.9	23	34.8

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(9) 覚知方法別出火件数

消防機関が火災をどのような方法で覚知しているかをみると、火災報知専用電話（携帯電話から）による通報が一番多く、全体の40.9%を占めています。

覚知方法別	区 分	出火件数 (件)	構成比 (%)
	火災報知専用電話（NTT 除く固定電話から）	1	1.5
	火災報知専用電話（NTT 固定電話から）	10	15.2
	火災報知専用電話（携帯電話から）	27	40.9
	加入電話（固定電話から）	1	1.5
	加入電話（携帯電話から）	2	3.0
	警察電話	8	12.1
	駆け付け通報		
	事後聞知	15	22.7
	空港専用	1	1.5
	その他（専用線）	1	1.5
	合 計	66	100

(注)警察電話とは、警察機関との専用回線をいう

空港専用とは、空港内警備消防センターとの専用回線をいう

※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

3 損害額

令和元年中に発生した火災による損害額は、前年から234,823千円増額し、311,378千円でした。

また、火災の損害額に対し、住民1人当たりでは2,244円、1日当たりでは853千円、火災1件当たりでは4,718千円の損害が出ており、火災により多くの財産が失われたことがわかります。

(1) 過去5年間の損害額の推移

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
損害額 (千円)	462,141	85,530	57,467	76,555	311,378
1件当たりの 損害額 (千円)	5,705	1,449	927	1,235	4,718

(2) 火災種別損害額

火災種別ごとの損害額をみると、建物火災によるものが全体の97.1%を占めています。

種別 区分	損害額 (千円)	割合 (%)	1件当たりの損害額 (千円)
建物	302,276	97.1	9,751
林野	70	0.1	14
車両	190	0.1	32
船舶			
航空機			
その他	8,842	2.8	368

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(3) 出火原因別の出火件数と損害額

令和元年中に発生した火災は66件で、その原因は「たき火」が12件で最も多く、全体の18.2%を占めています。

原因別	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
たき火	12	18.2	112	0.1
放火・放火の疑い	8	12.1	100	0.1
たばこ	7	10.6	31,388	10.1
電気機器・装置	5	7.6	461	0.1
排気管	5	7.6	1,247	0.4
電灯配線	4	6.1	15,917	5.1
こんろ	3	4.5	270	0.1
火入れ	2	3.0		
配線器具等	2	3.0	301	0.1
溶接機	2	3.0	26,851	8.6
焼却炉	1	1.5		
ストーブ	1	1.5	982	0.3
マッチ等	1	1.5	2	0.1
火遊び	1	1.5		
ボイラー	1	1.5	122	0.1
その他	3	4.5	1,674	0.5
不明	8	12.1	231,951	74.5
合計	66	100	311,378	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

4 火災種別ごとの状況

(1) 建物火災

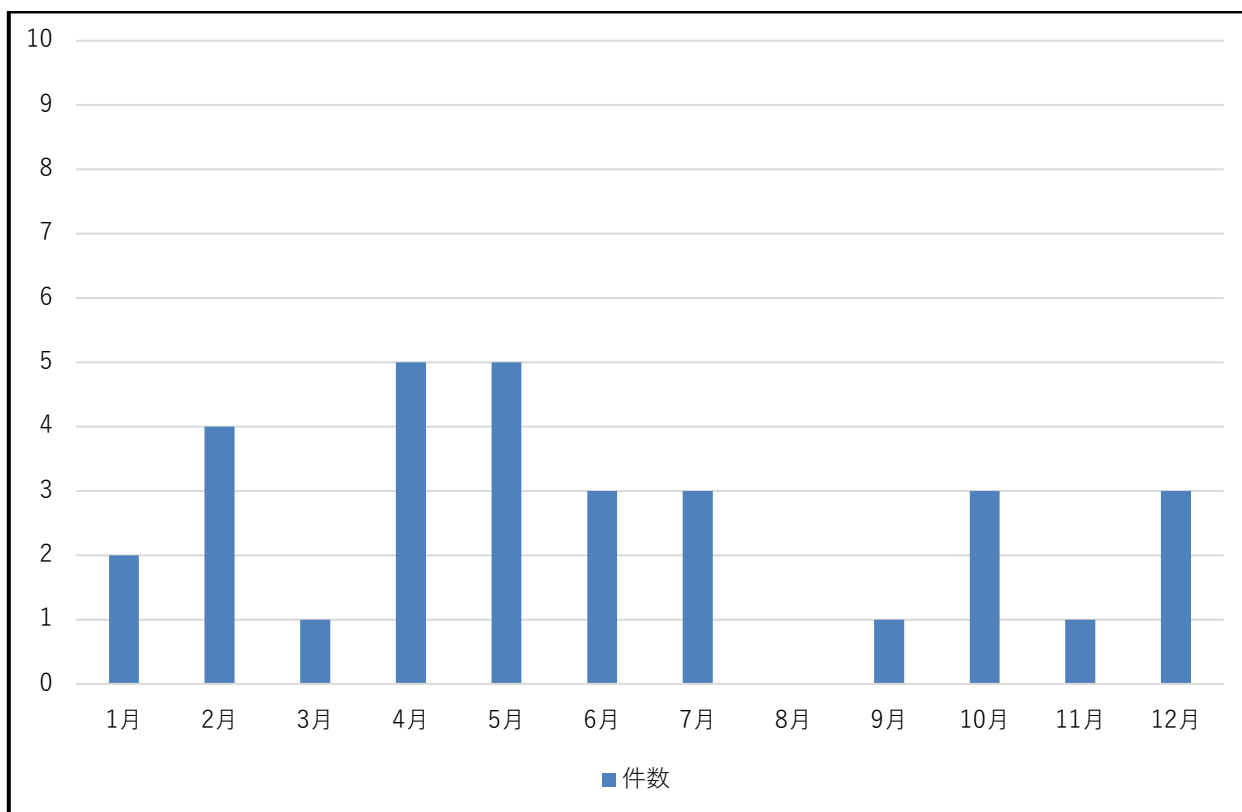
令和元年中に発生した建物火災は31件で、約12日に1件の割合で建物火災が発生していたことになります。

なお、過去5年間の建物火災の推移は以下のとおりです。

区 分 \ 年 別	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
出火件数 (件)	27	29	24	29	31
焼損面積 (㎡)	1,263	1,676	838.07	881.97	4,074.25
損害額 (千円)	137,730	83,413	47,819	72,179	302,276

(ア) 建物火災月別出火件数

令和元年中に発生した建物火災の月別出火件数は以下のとおりです。



(イ) 建物用途別の建物火災損害状況

建物火災の内訳を建物の用途別にみると、専用住宅火災が12棟で最も多く、全体の31.6%を占めています。

用 途 別			項 目	焼損棟数	割合 (%)	焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)
専 用 住 宅				12	31.6	288.29	21,463
1	イ	劇場、映画館					
	ロ	公会堂、集会場					
2	イ	キャバレー、カフェーの類					
	ロ	遊技場、ダンスホール					
	ハ	風俗営業等に関する法律、その他総務省令で定めるもの					
	ニ	カラオケボックス等					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店	1	2.6	19.1	191	
4		物品販売を営む店舗	1	2.6		3	
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所					
	ロ	寄宿舍、下宿、共同住宅	4	10.5	196.6	25,117	
6	イ	病院、診療所、助産所	1	2.6		1,096	
	ロ	老人短期入所施設、老人ホーム					
	ハ	老人デイサービスセンター、保育所					
	ニ	幼稚園、特別支援学校					
7		小、中、高等学校、大学、各種学校					
8		図書館、美術館等					
9	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場等					
	ロ	イに掲げる以外の公衆浴場					
10		車両の停車場等					
11		神社、寺院、教会等					
12	イ	工場、作業場	7	18.4	3,326.6	246,500	
	ロ	映画、テレビスタジオ					
13	イ	自動車車庫、駐車場	1	2.6		425	
	ロ	飛行機、回転翼航空機の格納庫					
14		倉庫					
15		前各項に該当しない事業所	4	10.5	243.66	7,370	
16	イ	一部が1項～4項、5項イ、6項、9項イの複合用途	7	18.4		111	
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物					
16 の2		地下街					
16 の3		地下道					
17		文化財等					
18		延長50メートル以上のアーケード					
19		市町村長の指定する山林					
20		総務省令で定める舟車					
その他		危険物施設					
合 計				38	100	4,074.25	302,276

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(ウ) 火元建物構造別損害状況

建物火災を火元建物の構造別にみると、耐火建物から出火した火災が12件と最も多くなっています。また、火元建物の構造別に火災1件当たりの焼損面積をみると、準耐火非木造建物が1,474.5㎡と最も大きくなっています。

区 分	項 目	出火件数 (件)	1件当たりの焼損面積 (㎡)	1件当たりの損害額 (千円)
	木 造	10	62.2	4,154.6
	防火造	1	68.7	11,943
	準耐火木造	2	3.75	169
	準耐火非木造	2	1,474.5	109,074
	耐 火	12	1.59	152.25
	その他	4	101.9	7,118.5

(エ) 建物火災の損害額及び焼損面積の段階別出火件数

損害額2,000千円未満の火災が全建物火災の80.7%を占めています。また、焼損面積では10㎡未満の火災が全建物火災の61.3%を占めています。

損害額 (千円)	出火件数 (件)	割合 (%)
～ 50 未満	11	35.5
50 ～ 100 //	1	3.2
100 ～ 500 //	8	25.8
500 ～ 1,000 //	2	6.5
1,000 ～ 2,000 //	3	9.7
2,000 ～ 3,000 //		
3,000 ～ 5,000 //		
5,000 ～ 10,000 //	1	3.2
10,000 ～ 20,000 //	3	9.7
20,000 以上	2	6.5
合 計	31	100

焼損面積 (㎡)	出火件数 (件)	割合 (%)
～ 10 未満	19	61.3
10 ～ 20 //	2	6.5
20 ～ 30 //	1	3.2
30 ～ 50 //	1	3.2
50 ～ 100 //	2	6.5
100 ～ 200 //	3	9.7
200 ～ 300 //	1	3.2
300 ～ 500 //	1	3.2
500 ～ 1,000 //		
1,000 ～ 2,000 //		
2,000 以上	1	3.2
合 計	31	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(オ) 建物火災の出火件数と損害額

建物火災を出火原因別にみると、たばこ、不明の各6件が最も多く、全体の各19.4%を占めています。

損害額は「不明」の231,951千円が最も多く、建物全体の76.7パーセントを占めています。

原因別 \ 区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
たばこ	6	19.4	31,388	10.4
電気機器・装置	4	12.9	430	0.1
こんろ	3	9.7	270	0.1
溶接機	2	6.5	26,851	8.9
放火	1	3.2	100	0.1
電灯配線	1	3.2	7,147	2.4
配線機器	1	3.2	263	0.1
ストーブ	1	3.2	982	0.3
たき火	1	3.2	1	0.1
ボイラー	1	3.2	122	0.1
排気管	2	6.5	1,097	0.4
その他	2	6.5	1,674	0.6
不明	6	19.4	231,951	76.7
合計	31	100	302,276	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(カ) 建物火災の放水開始時間別焼損状況

令和元年に発生した建物火災 31 件中、消防隊が出動して放水を行った件数は 13 件で、火災を覚知してから概ね 15 分以内に放水を開始しています。

なお、建物火災の放水開始時間別の焼損状況は以下のとおりです。

放水開始時間	区 分	出火件数 (件)	1 件当たりの焼損面積 (㎡)
5 分以内		1	13.9
6～10 分以内		2	84.1
11～15 分以内		8	113.2
16～20 分以内		1	
20～40 分以内		1	2,948.8
放水しなかった建物火災		18	2.3

(キ) 建物火災の鎮火所要時間別焼損状況

消防隊が放水した建物火災 13 件のうち 9 件が、覚知から鎮火まで 51 分以上かかっており、鎮火までの所要時間が増えるにつれ、焼損面積も増えています。

なお、鎮火所要時間別の出火件数及び焼損面積は以下のとおりです。

鎮火所要時間	区 分	出火件数 (件)	1 件当たりの焼損面積 (㎡)
20 分以内			
21～30 分以内		2	8.45
31～40 分以内		1	53.3
41～50 分以内		1	213.7
51 分以上		9	417.0

※「鎮火」とは、現場の最高責任者が再燃の恐れがないと判断したとき

(2) 林野火災

令和元年中に発生した林野火災は5件で、23.58aを焼損し、火災による損害額は70千円でした。

過去5年間の林野火災の推移は以下のとおりです。

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
出火件数 (件)	7	3	5	8	5
焼損面積 (a)	11	6	72	45.45	23.58
損害額 (千円)			23		70

(3) 車両火災

令和元年中に発生した車両火災は6件で、損害額は190千円でした。

過去5年間の車両火災の推移は以下のとおりです。

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
出火件数 (件)	9	5	8	7	6
損害額 (千円)	2,585	1,518	4,150	3,062	190

(ア) 車両火災の出火原因別焼損状況

原因別 区分	出火件数 (件)	割合 (%)	焼損台数 (台)	割合 (%)
排気管	4	66.7	4	66.7
マッチ等	1	16.7	1	16.7
配線器具	1	16.7	1	16.7
合計	6	100	6	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(4) 航空機火災

令和元年中の航空機火災は0件でした。過去5年間で1件発生しています。

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
出火件数 (件)	1				
焼損機数 (機)	1				
損害額 (千円)	319,243				

(5) 船舶火災

令和元年中の船舶火災は0件でした。過去5年間では発生していません。

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
出火件数 (件)					
焼損隻数 (隻)					
損害額 (千円)					

(6) その他の火災

令和元年中のその他の火災は24件発生し、損害額は8,842千円でした。

過去5年間のその他の火災の推移は以下のとおりです。

年別 区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
出火件数 (件)	37	22	25	18	24
損害額 (千円)	2,583	599	5,475	1,314	8,842

(ア) その他の火災の出火原因別損害状況

原因別 \ 区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
たき火	8	33.3	41	0.5
放火・放火の疑い	5	20.8		
たばこ	1	4.2		
火入れ	2	8.3		
焼却炉	1	4.2		
電灯配線	3	12.5	8,770	99.2
配線機器	1	4.2	31	0.4
火遊び	1	4.2		
その他	1	4.2		
不明	1	4.2		
合計	24	100	8,842	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

救 急



新成田赤坂救急1（令和2年1月更新）

1 救急の概要

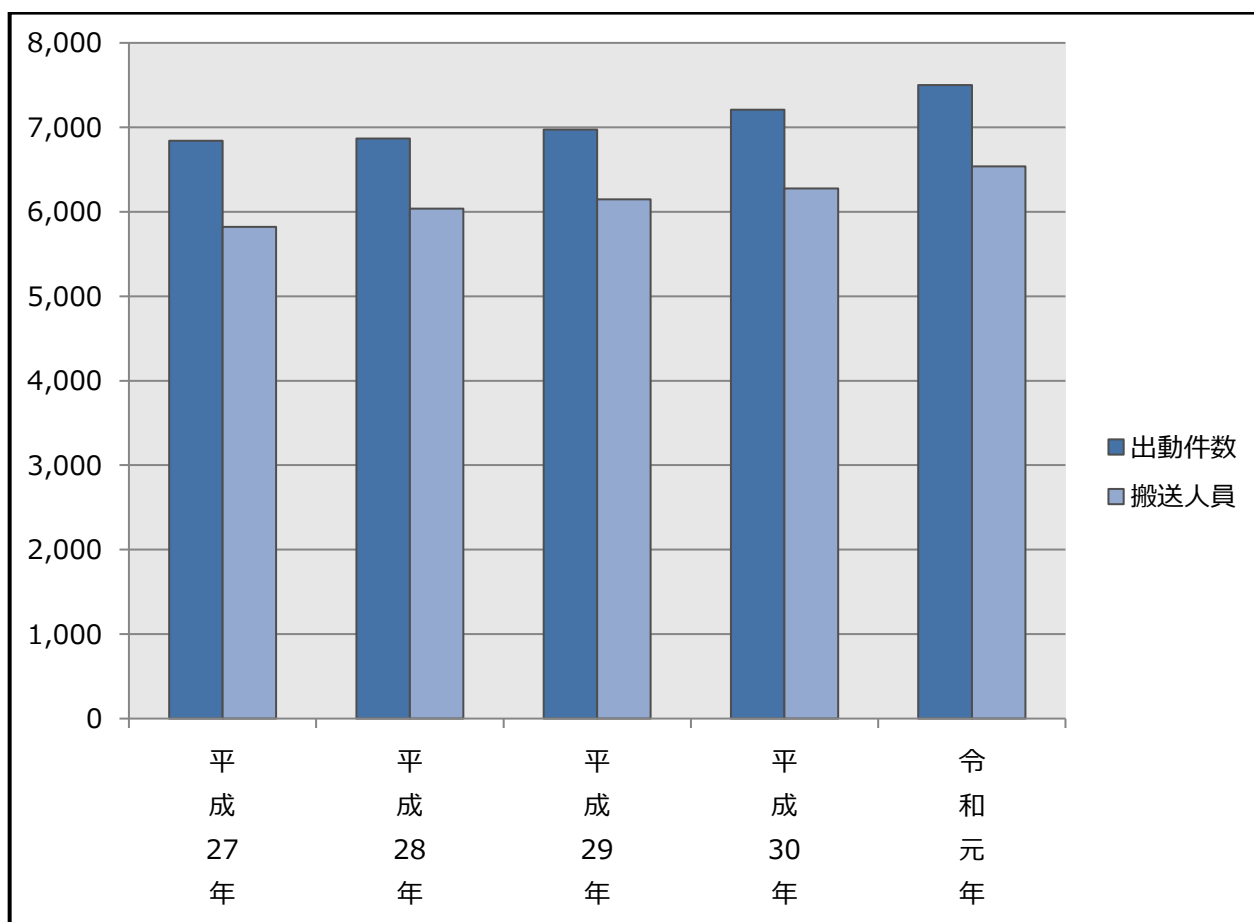
成田市消防本部の救急体制は、救急隊 8 隊を配置し、救急救命士 43 名を含む専門的な知識を持つ救急隊員で運用しています。

令和元年における救急出動件数は 7,499 件で、前年に比べると 291 件増加し、過去最高の件数となりました。

また、過去 5 年間をしてみると、救急出動件数、搬送人員ともに年々増加しています。

【過去 5 年間の救急件数の推移】

年別 件数	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
出動件数	6,843	6,869	6,975	7,208	7,499
搬送人員	5,820	6,037	6,149	6,277	6,538

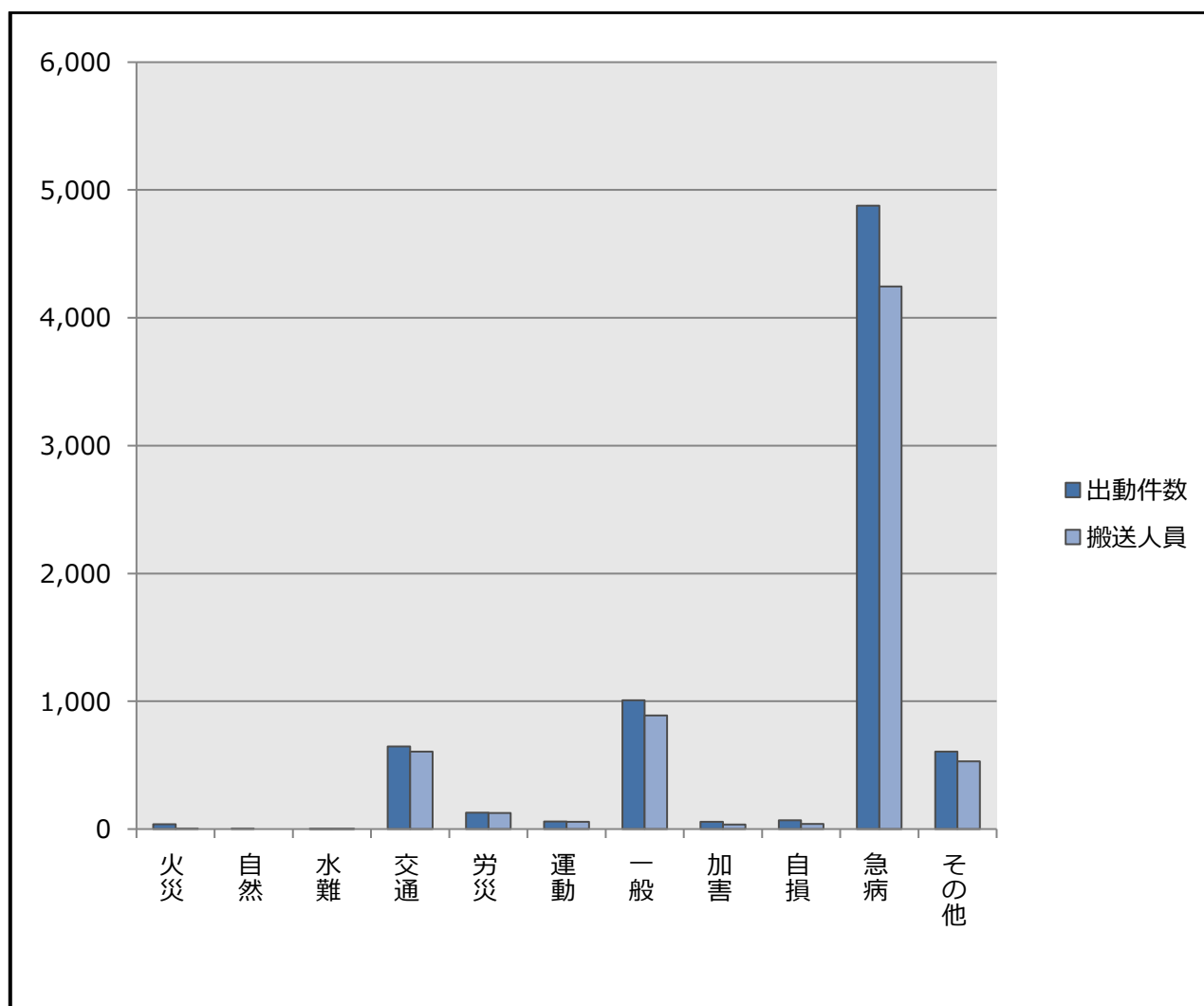


(1) 救急出動件数及び搬送人員

件数		種別											合計
		火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	
令和元年	出動件数	38	4	3	647	128	60	1,008	58	69	4,878	606	7,499
	割合(%)	0.5	0.1	0.1	8.6	1.7	0.8	13.4	0.8	0.9	65.0	8.1	100
	搬送人員	5		1	607	126	58	888	36	41	4,246	530	6,538
	割合(%)	0.1		0.1	9.3	1.9	0.9	13.6	0.6	0.6	64.9	8.1	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

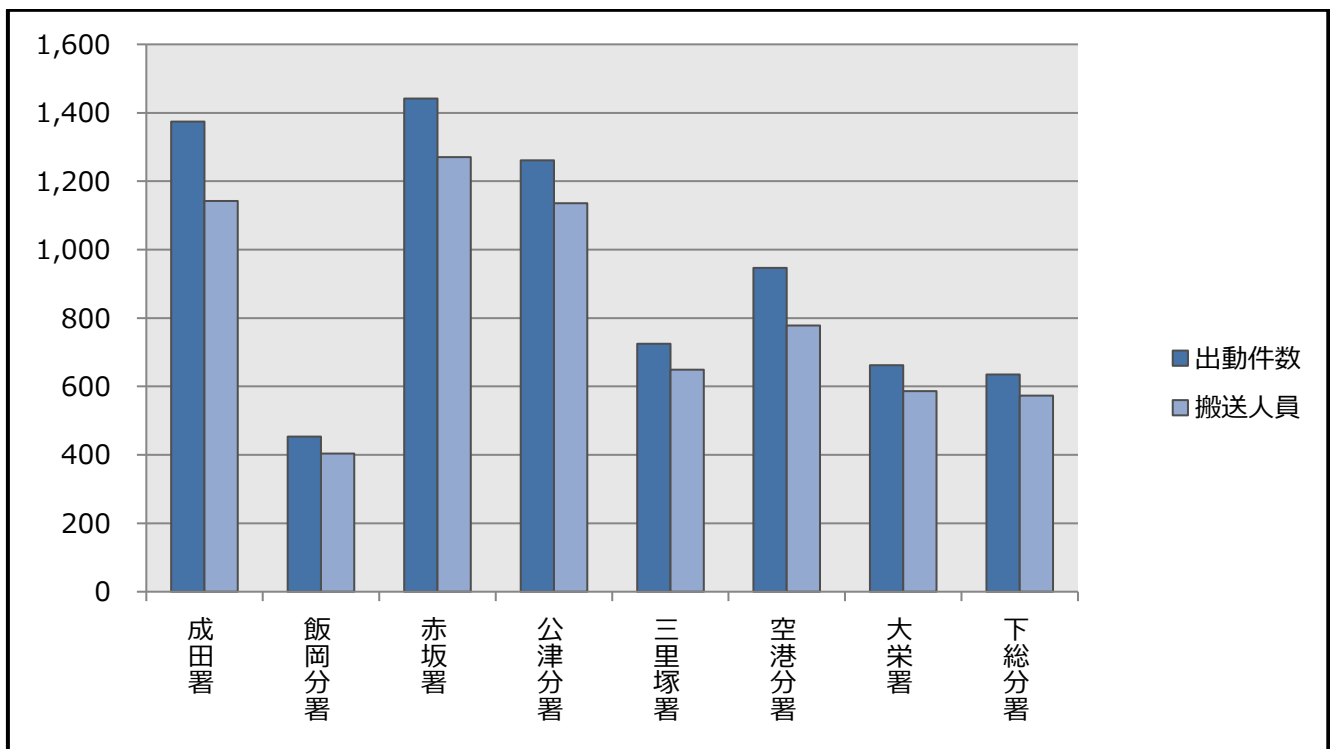
【令和元年中の出動件数と搬送人員】



(2) 署所別救急出動件数

令和元年

署別		種別	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
成田	出動件数	5	1		159	16	11	208	18	22	858	76	1,374	
	搬送人員				133	17	11	178	10	12	717	64	1,142	
飯岡	出動件数				40	10	5	69	3		308	18	453	
	搬送人員				34	10	5	64	3		274	14	404	
赤坂	出動件数	10	1		113	15	20	207	12	13	947	104	1,442	
	搬送人員	2			119	14	19	183	6	10	833	84	1,270	
公津	出動件数	5		1	112	8	7	171	10	10	771	166	1,261	
	搬送人員			1	105	8	7	153	8	6	692	156	1,136	
三里塚	出動件数				65	22	5	82	5	7	480	59	725	
	搬送人員				62	23	5	68	4	4	426	57	649	
空港	出動件数	15	1		65	30		88	6	7	667	68	947	
	搬送人員	2			71	30		70	3	3	542	57	778	
大栄	出動件数	2		1	61	18	4	86	2	7	448	33	662	
	搬送人員				57	18	3	78	2	4	403	21	586	
下総	出動件数	1	1	1	32	9	8	97	2	3	399	82	635	
	搬送人員	1			26	6	8	94		2	359	77	573	
合計	出動件数	38	4	3	647	128	60	1,008	58	69	4,878	606	7,499	
	搬送人員	5		1	607	126	58	888	36	41	4,246	530	6,538	



(3) 地区別救急出動件数

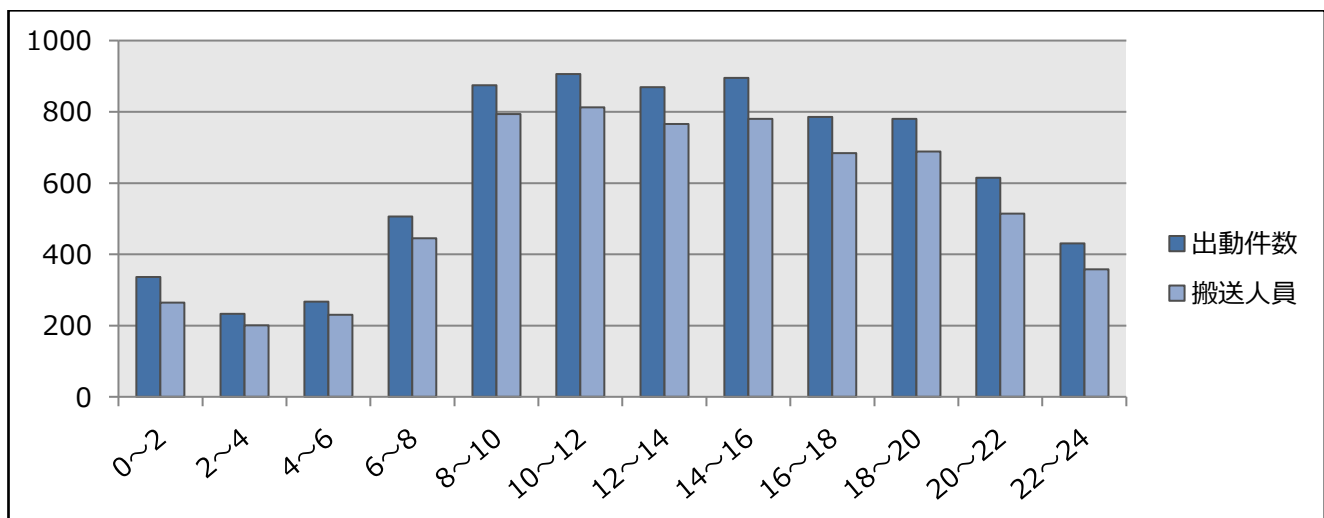
令和元年

地区別	種別	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
成 田	出動件数	8	2	1	140	17	4	216	24	13	878	37	1,340
	搬送人員	1		1	124	17	4	182	15	6	726	28	1,104
公 津	出動件数	4			112	5	2	150	11	10	713	211	1,218
	搬送人員				109	5	2	134	7	7	641	205	1,110
八 生	出動件数	1			24	5	4	28	1		151	40	254
	搬送人員				26	4	4	27			143	38	242
中 郷	出動件数		1		22	5		9		1	47	1	86
	搬送人員				23	6		8			43		80
久 住	出動件数	2			19	4	1	42		2	131	7	208
	搬送人員				21	4	1	40		2	122		190
豊 住	出動件数				9	3	2	8			62	2	86
	搬送人員				9	3	2	9			49		72
遠 山	出動件数	7			140	24	7	133	6	16	678	52	1,063
	搬送人員				141	25	6	110	3	8	608	47	948
ニュー タウン	出動件数	4			66	5	27	162	4	15	735	57	1,075
	搬送人員	1			57	5	26	144	3	11	647	39	933
下 総	出動件数				23	8	10	67	4	2	250	24	388
	搬送人員				20	6	10	66	2	1	222	18	345
大 栄	出動件数	9			52	24	3	73	2	6	437	23	629
	搬送人員	3			43	23	3	65	2	4	397	13	553
神 崎	出動件数			2	9	3		48		2	222	77	363
	搬送人員				8	3		44		1	203	76	335
空港内	出動件数	2	1		19	22		64	6	2	528	74	718
	搬送人員				16	22		50	4	1	410	65	568
管 外	出動件数	1			12	3		8			46	1	71
	搬送人員				10	3		9			35	1	58
合 計	出動件数	38	4	3	647	128	60	1,008	58	69	4,878	606	7,499
	搬送人員	5		1	607	126	58	888	36	41	4,246	530	6,538

(4) 時間別救急出動件数

令和元年

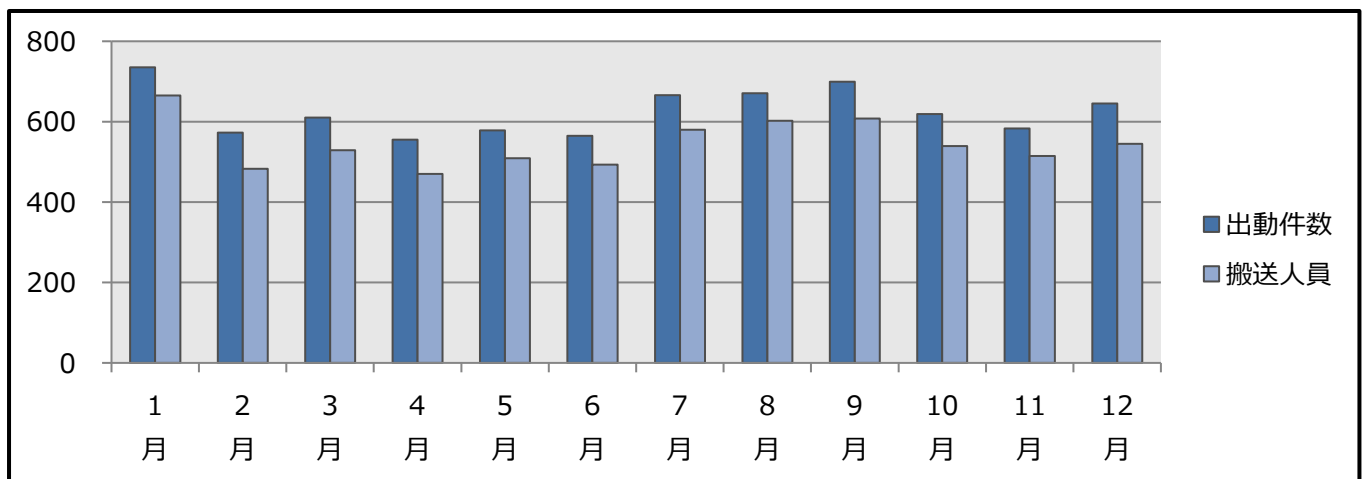
時間別	種別	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
		0~2	出動件数	3			14	1		36	14	2	258
	搬送人員				10	1		29	5		213	6	264
2~4	出動件数	1			9	1		25	7	2	182	6	233
	搬送人員				10	1		20	5	1	161	3	201
4~6	出動件数	2			15	2		19	9	2	213	5	267
	搬送人員	1			13	2		16	7	1	185	5	230
6~8	出動件数		1		62	4		56	2	4	366	11	506
	搬送人員				64	4		49	1	1	321	5	445
8~10	出動件数	4			83	25	7	119	4	5	566	62	875
	搬送人員	1			78	25	7	112	3	2	508	58	794
10~12	出動件数	5		1	65	24	14	134	3	6	523	131	906
	搬送人員	2		1	56	24	13	117	2	4	468	126	813
12~14	出動件数	4		2	79	15	16	101	5	12	523	112	869
	搬送人員				80	14	15	89	3	6	455	104	766
14~16	出動件数	3	1		75	25	13	125	2	6	548	97	895
	搬送人員	1			68	25	13	116	2	6	470	79	780
16~18	出動件数	5	1		99	14	4	126	1	6	443	87	786
	搬送人員				91	13	4	115	1	5	380	75	684
18~20	出動件数	4			80	11	5	117	3	9	516	35	780
	搬送人員				74	11	5	105	3	7	452	32	689
20~22	出動件数	4			47	5	1	84	3	7	432	32	615
	搬送人員				43	5	1	65	1	3	371	25	514
22~24	出動件数	3	1		19	1		66	5	8	308	20	431
	搬送人員				20	1		55	3	5	262	12	358
合計	出動件数	38	4	3	647	128	60	1,008	58	69	4,878	606	7,499
	搬送人員	5		1	607	126	58	888	36	41	4,246	530	6,538



(5) 月別救急出動件数

令和元年

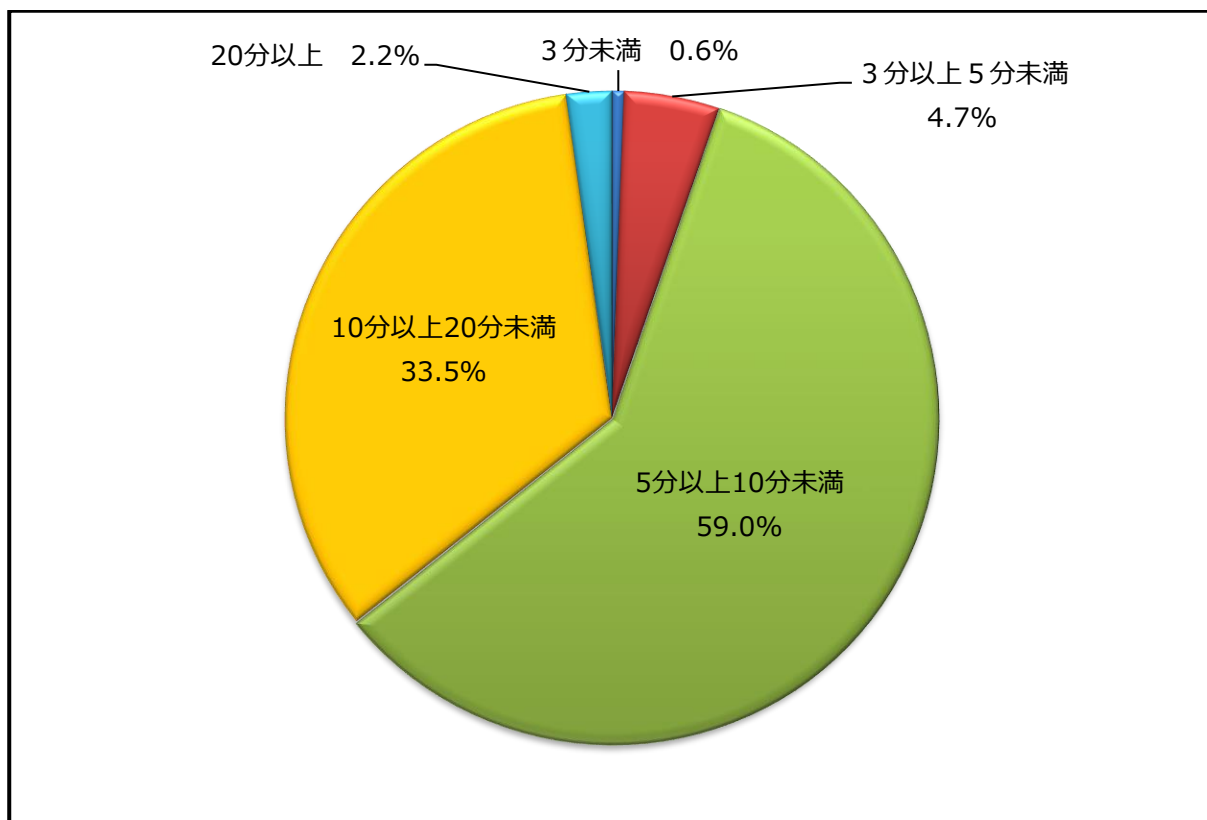
種別 月別		火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
		1月	出動件数	3			55	9	1	92	5	5	512
	搬送人員	1			58	9	1	76	5	2	465	48	665
2月	出動件数	5			54	5	3	90	4	5	364	43	573
	搬送人員	1			48	5	3	79	2	4	303	38	483
3月	出動件数	3		1	55	6	6	89	4	4	378	64	610
	搬送人員	1		1	47	6	6	76	1	1	331	59	529
4月	出動件数	3			57	14	6	71	1	7	348	48	555
	搬送人員				47	14	6	61	1	4	295	42	470
5月	出動件数	6			48	6	11	65	9	8	372	53	578
	搬送人員				46	5	11	59	4	6	335	43	509
6月	出動件数	4			43	7	3	80	10	4	369	45	565
	搬送人員				41	7	2	70	8	3	322	40	493
7月	出動件数	1		2	55	11	5	95	5	5	440	47	666
	搬送人員				51	12	5	85	1	3	381	42	580
8月	出動件数	1			58	17	6	72	2	9	461	45	671
	搬送人員				65	18	5	62	2	5	406	39	602
9月	出動件数	3	2		51	18	6	92	8	3	468	48	699
	搬送人員				47	16	6	83	5	1	415	35	608
10月	出動件数	2	2		59	12	1	91	3	8	384	57	619
	搬送人員				53	12	1	84	3	5	333	48	539
11月	出動件数	3			59	13	6	81	2	6	364	49	583
	搬送人員	1			57	13	6	72	2	4	315	45	515
12月	出動件数	4			53	10	6	90	5	5	418	54	645
	搬送人員	1			47	9	6	81	2	3	345	51	545
合計	出動件数	38	4	3	647	128	60	1,008	58	69	4,878	606	7,499
	搬送人員	5		1	607	126	58	888	36	41	4,246	530	6,538



(6) 現場到着所要時間別出動件数

令和元年

所要時間 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合計 (件数)	平均所要時間 (分)
急病	28	191	2,955	1,621	83	4,878	8.9
交通事故	1	33	317	267	29	647	10.0
一般負傷	9	53	601	320	25	1,008	8.9
その他	6	75	552	302	31	966	9.1
合計	44	352	4,425	2,510	168	7,499	9.2



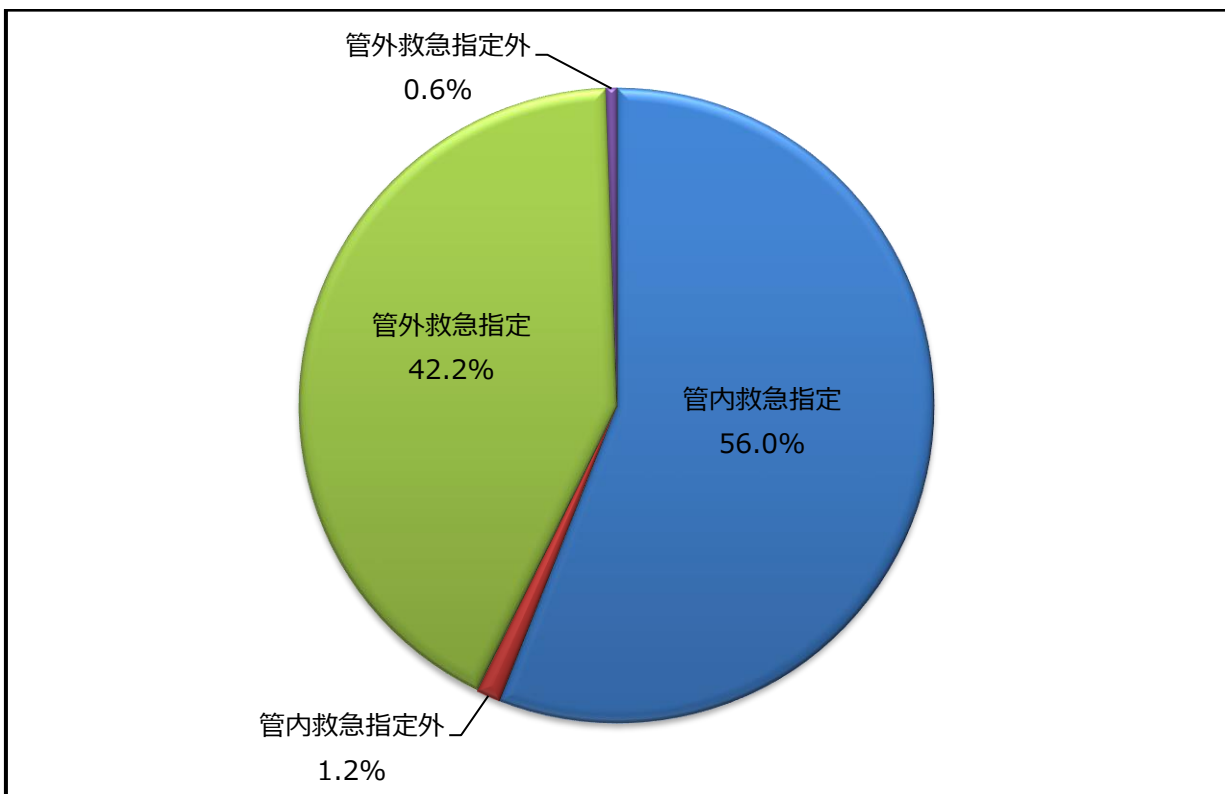
※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(7) 医療機関別搬送人員状況

令和元年

医療機関		種 別	急 病	交 通	一 般	そ の 他	合 計	割 合 (%)
管内	救急指定		2,485	260	497	420	3,662	56.0
	救急指定外		67	3	9	2	81	1.2
管内小計			2,552	263	506	422	3,743	57.2
管外	救急指定		1,676	343	377	363	2,759	42.2
	救急指定外		18	1	5	12	36	0.6
管外小計			1,694	344	382	375	2,795	42.8
その他の場所								
合 計			4,246	607	888	797	6,538	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

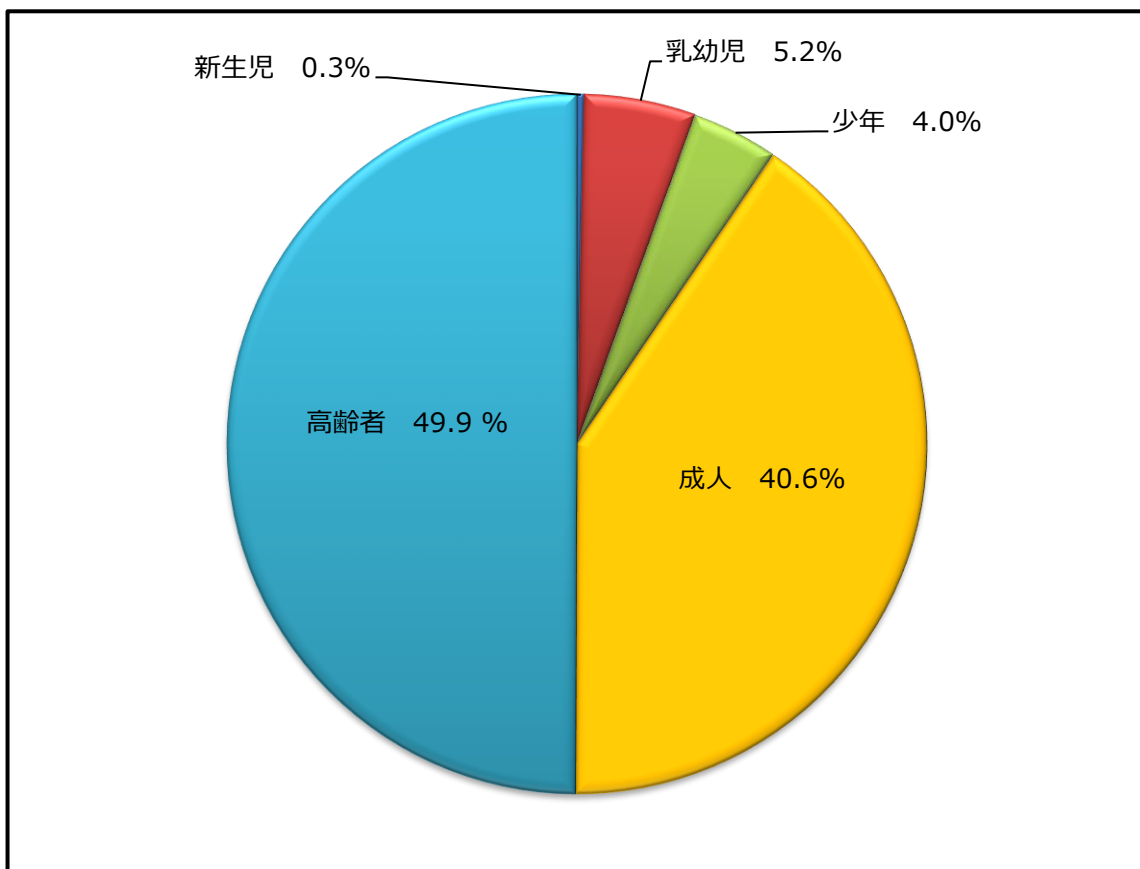


(8) 年齢区分別搬送人員状況

令和元年

年齢区分	種別				合計	割合 (%)
	急病	交通	一般	その他		
新生児 (生後28日未満)	5		2	14	21	0.3
乳幼児 (生後28日～満7歳未満)	227	21	63	27	338	5.2
少年 (満7歳以上～満18歳未満)	120	50	36	54	260	4.0
成人 (満18歳以上～満65歳未満)	1,652	411	227	364	2,654	40.6
高齢者 (満65歳以上)	2,242	125	560	338	3,265	49.9
合計	4,246	607	888	797	6,538	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

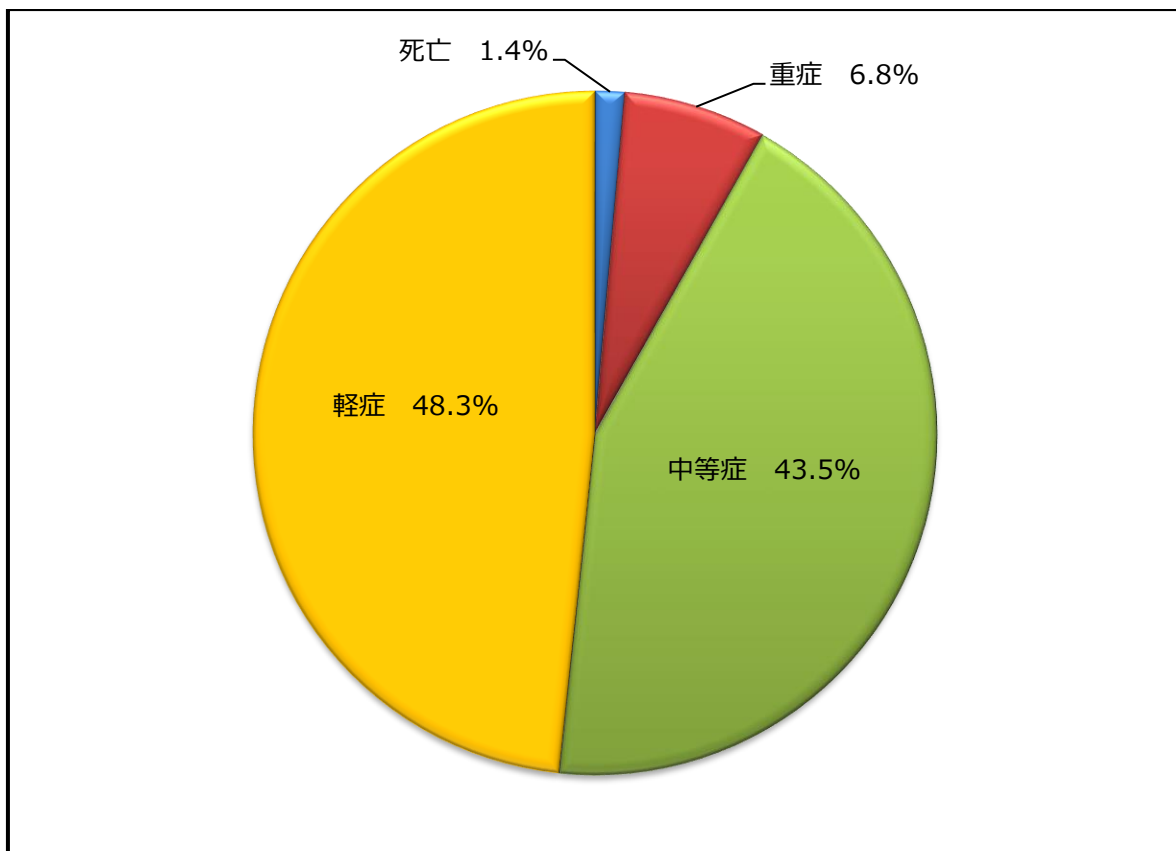


(9) 傷病程度別搬送人員状況

令和元年

種別 程度区分	急病	交通	一般	その他	合計	割合 (%)
死亡	80	2	2	7	91	1.4
重症	289	17	26	111	443	6.8
中等症	2,010	90	292	453	2,845	43.5
軽症	1,867	498	568	226	3,159	48.3
その他						
合計	4,246	607	888	797	6,538	100

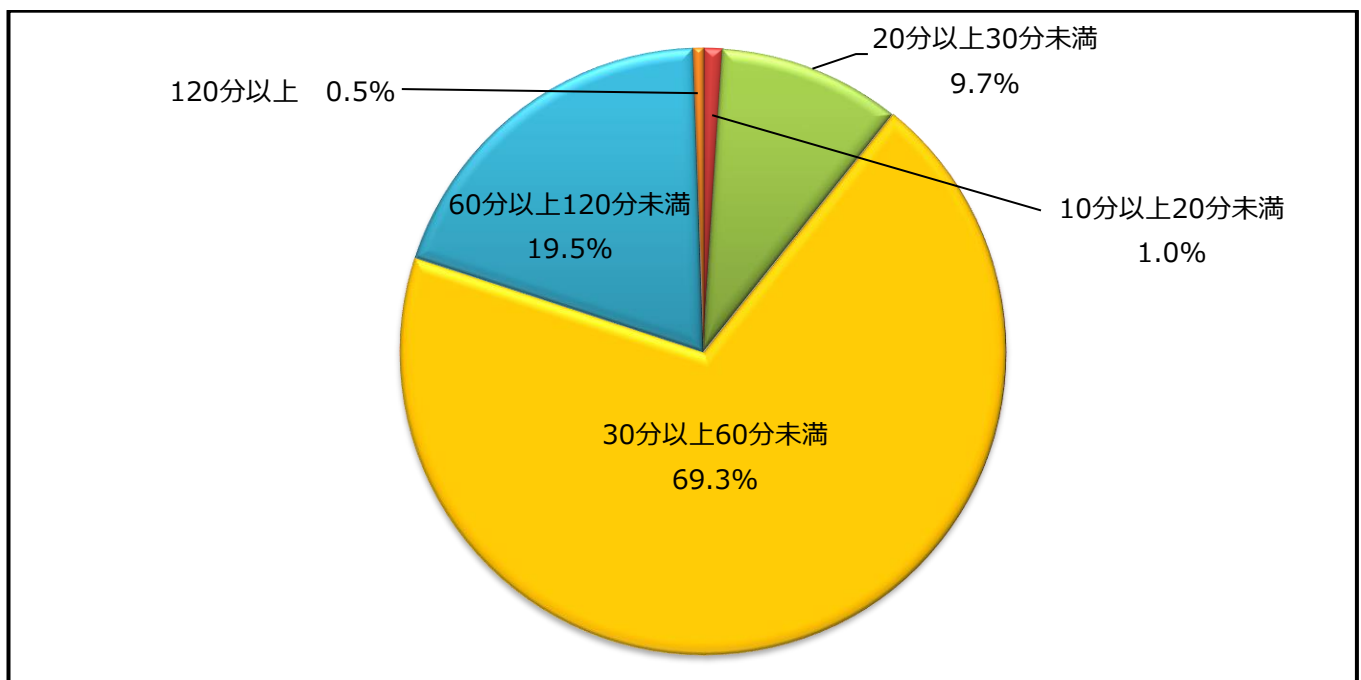
※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。



(10) 病院収容所要時間別搬送人員

令和元年

所要時間 種別	10分未満		10分以上 20分未満		20分以上 30分未満		30分以上 60分未満		60分以上 120分未満		120分 以上		合計		平均 所要 時間 (分)
	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	うち 管内	うち 管外	
急病			26		402	66	2,979	1,161	817	451	22	16	4,246	1,694	47.9
交通事故			3		50	19	446	257	107	67	1	1	607	344	47.0
一般負傷			7	2	72	18	619	263	182	94	8	5	888	382	48.4
その他			30		110	15	488	228	166	130	3	2	797	375	47.1
合計			66	2	634	118	4,532	1,909	1,272	742	34	24	6,538	2,795	47.6



※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

(11) 転送回数別搬送人員

令和元年

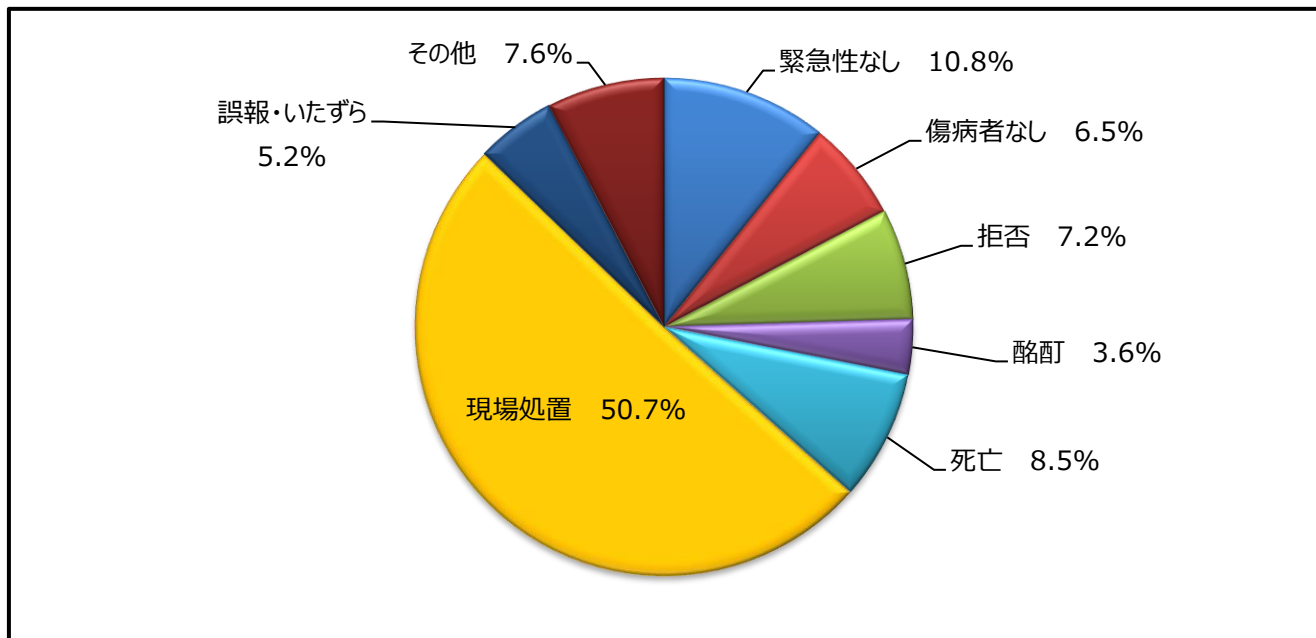
転送回数	事故種別・対象人員				合計
	急病	交通事故	一般負傷	その他	
0回(転送なし)	4,229	606	883	794	6,512
1回	17	1	5	3	26
2回以降					

(12) 不搬送理由別不搬送件数

令和元年

種別 理由別	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計	割合(%)
緊急性なし				13			16			76	7	112	10.8
傷病者なし	19	3	1	6			2	3	4	14	16	68	6.5
拒否	1			11			12	2	2	46	1	75	7.2
酩酊				1			6	1	1	27	1	37	3.6
死亡	2		1				3		6	75	1	88	8.5
現場処置	1			57	2	1	69	13	11	367	6	527	50.7
誤報・いたづら	4			1			1			16	32	54	5.2
その他	6	1		16			3	2	4	35	12	79	7.6
合計	33	4	2	105	2	1	112	21	28	656	76	1,040	100

※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。



(13) 救急隊員が行った応急処置件数

令和元年

応急処置	事故種別				合 計
	急 病	交通事故	一般負傷	その他	
止血	27	18	42	17	104
固定	60	506	208	72	846
人工呼吸	17	1	2	5	25
心臓マッサージ	10		1	2	13
うち自動心臓マッサージ	2				2
心肺蘇生	111	6	7	12	136
うち自動心臓マッサージ	3				3
酸素吸入	984	87	70	186	1,327
気道確保	125	8	9	12	154
うち経鼻エアウェイ	5				5
うち喉頭鏡・鉗子等使用の異物除去	8		2		10
うちラリングアルマスク等使用	23	3	1	5	32
うち気管挿管	11	2	1		14
保温	199	28	39	19	285
被覆	25	127	235	64	451
在宅医療法継続	7			1	8
ショックパンツによる血圧の保持					
除細動	30			2	32
静脈路確保（輸液）	89	3	3	4	99
うち心肺停止前	24			2	26
薬剤投与	19	2	1		22
血圧測定	3,593	676	759	644	5,672
聴診器による心音・呼吸音の聴取	1,823	322	235	205	2,585
血中酸素飽和度の測定	3,685	683	796	669	5,833
心電図測定	3,016	295	388	393	4,092
血糖測定	62	2	2		66
エピペン投与					
ブドウ糖投与	7				7
その他の応急処置	3,773	679	804	652	5,908

2 救命講習実施概要

令和元年中に実施した各救命講習の概要は、以下のとおりです。また、平成29年度より女性消防団員が応急手当普及員として、普通救命講習の指導に参加しています。

令和元年

所属	普通救命講習Ⅰ		普通救命講習Ⅲ		上級救命講習		応急手当普及員講習		救命入門コース		救急講習	
	講習回数	受講者数	講習回数	受講者数	講習回数	受講者数	講習回数	受講者数	講習回数	受講者数	講習回数	受講者数
成田消防署	29	734	6	98					1	9	4	135
赤坂消防署	32	1,335	5	114							10	
三里塚消防署	28	391	1	7							9	74
大栄消防署	11	118	1	22					1	56	8	64
本部	6	211	3	75	6	251	5	158				
応急手当普及員	35	665	4	22								
合計	141	3,454	20	338	6	251	5	158	2	65	31	273

救 助



第48回消防救助技術関東地区指導会障害突破救助訓練

1 救助の概要

成田市消防本部の救助体制は、成田消防署に高度救助隊1隊、大栄消防署に救助隊1隊を配置し、市内で発生する様々な災害現場で人命救助活動にあたっています。

また、管轄内に成田国際空港を擁することから、テロなどの特殊災害への対応力強化と各機関との連携強化を図るため、警察や空港関係機関との合同訓練を行い、救助体制の充実強化を図っています。

(1) 救助業務実施状況

令和元年

事故種別 区分	火 災		交 通	水 難	自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他の事故	合 計
	建 物	建物以外									
出動件数	1		29	2	4	2	6			45	89
活動件数	1		13	2	2	2	5			28	53
救助人員	1		12	2		2	5			24	46

※火災にあっては救助活動を行った火災件数

(2) 署所別救助出動件数

令和元年

事故種別 所 属	火 災		交 通	水 難	自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他の事故	合 計
	建 物	建物以外									
成 田 消 防 署			14	1	4	1	2			16	38
赤 坂 消 防 署	1		3				2			19	25
三 里 塚 消 防 署			6			1	2			5	14
大 栄 消 防 署			6	1						5	12
合 計	1		29	2	4	2	6			45	89

※火災にあっては救助活動を行った火災件数

(3) 出動車両及び出動人員の状況

令和元年

事故種別		火 災		交 通	水 難	自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他の事故	合 計
		建 物	建物以外									
区 分												
出 動 車 両	救 助 工 作 車	1		24	1	4	2	6			39	77
	ポ ン プ 車	4		65	4	10	3	6			63	155
	は し ご 車										2	2
	指 揮 車	1		6	2						3	12
	救 急 自 動 車	2		40	2	3	2	6			46	101
	船 舶											
	そ の 他										3	3
	消 防 団 車 両	3					1					
合 計		11		135	9	18	7	18			156	354
出 動 人 員	専任救助隊員	4		104	4	16	8	24			168	328
	兼任救助隊員			3								3
	消 防 隊 員	16		237	15	36	11	23			254	592
	救 急 隊 員	6		124	6	9	6	18			145	314
	消 防 団 員	39					7					46
合 計		65		468	25	68	25	65			567	1,283

航空機災害



成田国際空港（成田市さくらの山公園から）

1 航空機災害の概要

成田市消防本部では、管轄内に成田国際空港を擁していることから、航空機災害を想定した消火救難総合訓練、航空機からの燃料漏れ等を想定した油火災消火訓練など、各関係機関との連携訓練を実施し、航空機災害への対応力強化を図っています。

令和元年中の航空機災害出動は、航空機のエンジントラブル等により、緊急着陸する際の災害発生に備えて安全確保と消火体制を整えるための警戒出動が7件発生しました。

(1) 月別緊急着陸の警戒出動件数

令和元年

年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和元年						1	2	1	3				7

(2) 原因別緊急着陸の警戒出動件数

原因別 \ 年	平成 29 年 (件)	平成 30 年 (件)	令和元年 (件)
エンジントラブル	1	5	2
計器トラブル	1	2	1
油圧トラブル	3	1	
タイヤトラブル			
機体トラブル			3
その他	9	10	1
合計	14	18	7

その他の出動等



令和元年台風15号上陸に伴う市内の被害状況

その他の出動及び出向状況

年別 出動区分	平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年		平成 30 年		令和元年	
	回数	延人員	回数	延人員	回数	延人員	回数	延人員	回数	延人員
救急支援	223	902	274	1,082	267	1,041	285	1,155	235	965
P A 連携	15	63	83	327	559	2,251	492	1,995	526	2,140
危険物排除	56	254	59	243	58	234	86	354	90	365
緊急確認	106	425	123	498	113	452	119	491	184	752
風水害	5	20	48	186	12	49	9	33	28	115
警戒（その他）	1	4	1	8	1	4	3	12		
誤報	38	707	44	894	49	206	35	152	28	116
その他	2	12							1	4
検索										
調査										
その他	2	12								
偵察										
応援	1	4	1	8	2	8	2	8	3	14
演習・訓練等	653	2,953	617	2,571	833	3,668	797	3,432	477	2,233
広報・指導	483	2,047	348	1,485	369	1,759	571	2,227	426	1,691
警防調査	513	2,283	421	1,721	482	1,989	441	1,787	465	2,276
火災調査	47	208	54	206	36	159	67	259	63	245
特別警戒	186	667	127	542	61	292	83	298	232	880
予防査察	510	2,169	464	1,887	368	1,540	296	1,204	317	1,258

※救命対応の出動区分を、平成 28 年から PA 連携に変更

消 防 水 利



成田山新勝寺境内 立管式消火栓

1 地区別消防水利状況

令和元年度

	消火栓							合計
	公設			私設				
	150mm 未満	150mm 以上	小計	150mm 未満	150mm 以上	小計		
成田	158	106	264	18	1	19	283	
公津	130	108	238	6		6	244	
八生	29	19	48				48	
中郷	11	3	14				14	
久住	9	11	20		24	24	44	
豊住	34	16	50	6	6	12	62	
遠山	125	112	237	4		4	241	
ニュータウン	219	116	335	8	7	15	350	
下総	30	24	54	3	12	15	69	
大栄	81	31	112				112	
神崎	118	67	185	1	3	4	189	
空港内				122	179	301	301	
合計	944	613	1557	168	232	400	1,957	
	防火水槽							合計
	公設			私設				
	40t 未満	40t 以上	小計	40t 未満	40t 以上	小計		
成田	17	60	77	6	59	65	142	
公津	44	84	128	1	59	60	188	
八生	46	51	97		11	11	108	
中郷	30	21	51		2	2	53	
久住	42	55	97	2	16	18	115	
豊住	35	40	75		13	13	88	
遠山	33	85	118	6	109	115	233	
ニュータウン		30	30	2	37	39	69	
下総	56	121	177	2	40	42	219	
大栄	163	186	349	6	107	113	462	
神崎	65	65	130		17	17	147	
空港内				2	33	35	35	
合計	531	798	1,329	27	503	530	1,859	

2 年度別消防水利新設状況

種別	年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	防火水槽		7	10	16	6
補助金 設 置						
消火栓		3	3	12	11	6

※防火水槽の新設については、公設・私設を含む

※消火栓の新設については、開発行為で設置し移管されたものや県水道局設置分を含む

装 備



新成田化学1（令和2年2月更新）

1 主な特殊器具

令和2年4月1日現在

区分	品名	数量	区分	品名	数量
放水器具	放水銃（キャノン砲含む）	4	生物・化学テロ対応資機材	有毒ガス簡易検知器	2
	発ぼう管そう	10		物質同定装置	1
高度救助用器具	画像探索機	1		携帯型化学剤検知器	1
	地中音響探知機	1		陽圧式化学防護服	30
	熱画像直視装置	9		携帯型生物剤検知装置	1
	夜間暗視装置	1		有毒ガス検知管	6(式)
	地震警報器	1		化学剤検知紙	191(組)
救助器具	救助マット	2(式)		除染シャワー	4(式)
	緩降機	3		除染剤散布器	4
	油圧式救助器具	8(式)		防毒マスク	98
	救助用送排風機	2	放射線測定器	GM管式放射線測定器	7
	可搬ウインチ	10		電離箱式放射線測定器	2
	救命索発射銃	1		個人線量計	40
破壊器具	酸素溶断器	2	水難資器材	ドライスーツ	11
	エンジンカッター	12		ウェットスーツ	11
	チェーンソー	14		潜水資器材	10
	削岩機	4	救急資器材	半自動式除細動器	6
	空気切断機	3		自動体外式除細動器	12
保安器具	空気呼吸器	78	その他	可燃性ガス検知器	9
	酸素呼吸器	8		消火薬剤メガフォーム	2,240L
	耐電衣	6		消火薬剤ミラクルフォーム	390L
	耐熱服	11		インパルス消火システム	1
	エアラインマスク	1(式)		簡易画像探索機	2
	化学防護服	133		スーパーミスト消火システム	1
	放射線防護服	3		骨伝導無線機	10
	簡易型防護服	198		加圧送風機	3

2 常備消防の車両等の配置状況及び諸元性能

No	配置先	呼出名称	車両種別(型式)	登録番号	免許区分	緊援隊 登録状況	初年度登録	ポンプ 等級	積載量	乗車定員 (人)	車重 (kg)	全長 (mm)	車幅 (mm)	車高 (mm)	排気量 (cc)	総重量 (kg)
1	消防総務課	成田本部広報1	広報車	成田 830 さ 1590	普通		平成29年			5	1,180	4,390	1,690	1,720	1,490	1,740
2		消防長車	プリウス	成田 330 そ 760	普通		平成28年			5	1,360	4,540	1,760	1,470	1,790	1,635
3		消防1号	ハイエース	成田 330 さ 7350	普通		平成29年			10	2,050	5,380	1,880	2,280	2,690	2,600
4	予防課	成田本部広報2	広報車	成田 830 さ 1591	普通		平成24年			5	1,330	4,400	1,690	2,080	1,590	2,040
5	警防課	成田本部指揮統制1	指揮車	成田 830 さ 1592	普通		平成26年			8	1,760	4,680	1,690	2,020	1,990	2,200
6		成田本部資機材1	資機材搬送車	千葉 800 す 6812	準中型		平成15年		2,000kg	3	3,030	4,900	1,880	2,800	5,240	5,195
7	指揮指令課	成田本部指揮1	指揮車	成田 830 す 2013	普通		平成25年			5	2,800	5,600	1,880	2,920	2,690	3,075
8	成田消防署	成田水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅱ型)	成田 830 さ 2012	中型		平成24年	A2	水 2,000ℓ	6	8,350	7,110	2,320	3,000	6,400	10,680
9		成田ポンプ1	ポンプ車(CD-1型)	成田 830 た 2010	準中型		平成22年	A2		5	5,100	5,800	1,900	2,800	4,000	5,375
10		成田はしご1	はしご車(40m級)	千葉 830 り 119	大型		平成17年			6	21,620	11,750	2,490	3,620	10,520	21,950
11		成田化学1	化学消防車(Ⅳ型)	成田 830 つ 2019	大型	消火	令和2年	A1	水 2,000ℓ、薬 1,600ℓ	6	14,630	9,350	2,500	3,180	8,860	18,590
12		成田救助1	救助工作車(Ⅲ型)	成田 830 つ 2018	大型	救助	平成30年			6	11,560	7,920	2,330	3,150	5,120	11,890
13		成田救急1	高規格救急車	成田 830 さ 2011	普通		平成23年			7	2,780	5,620	1,890	2,530	2,690	3,165
14		成田救急2	高規格救急車	成田 830 そ 2010	普通		平成22年			7	2,750	5,620	1,890	2,530	2,690	3,135
15		成田指揮1	指揮車	成田 830 さ 1594	普通		平成26年			8	1,650	4,680	1,690	2,020	1,990	2,090
16		成田給水1	小型動力ポンプ付水槽車(Ⅱ型)	成田 830 て 2018	大型		平成31年	B2	水 10,000ℓ	3	8,990	8,440	2,490	3,040	7,790	19,155
17		飯岡分署	成田飯岡水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅰ-A型)	成田 830 の 119	中型		平成30年	A2	水 1,500ℓ	6	7,240	6,710	2,310	3,120	5,190
18	成田飯岡救急1		高規格救急車	成田 830 な 119	普通		平成26年			7	2,860	5,650	1,890	2,540	2,690	3,245
19	成田飯岡広報1		広報車	成田 830 に 119	普通		平成27年			5	1,180	4,390	1,690	1,720	1,490	1,740
20	赤坂消防署	成田赤坂水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅱ型)	千葉 830 さ 2005	中型		平成17年	A2	水 2,000ℓ	6	7,570	7,350	2,300	2,950	6,400	9,900
21		成田水槽2	水槽付ポンプ車(Ⅱ型)	成田 830 ち 119	中型		平成21年	A2	水 2,000ℓ	5	8,630	7,490	2,380	2,950	6,400	10,905
22		成田赤坂ポンプ1	ポンプ車(CD-1型)	成田 830 た 2014	準中型		平成26年	A2		5	5,580	5,680	1,900	2,900	4,000	5,855
23		成田赤坂はしご1	屈折はしご車(15m級)	成田 830 す 845	大型		平成28年			6	11,720	7,360	2,350	3,750	6,400	12,050
24		成田赤坂救急1	高規格救急車	成田 830 た 2019	普通		令和2年			7	2,860	5,650	1,890	2,490	2,690	3,245
25		成田赤坂指揮1	指揮車	成田 830 さ 3210	普通		平成26年			8	1,650	4,680	1,690	2,020	1,990	2,090
26	公津分署	公津水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅱ型)	成田 830 そ 2006	中型	消火	平成19年	A2	水 2,000ℓ	6	8,240	7,300	2,280	3,000	6,400	10,570
27		公津救急1	高規格救急車	成田 830 て 2016	普通	救急	平成28年			7	2,860	5,650	1,900	2,490	2,690	3,245
28		公津広報1	広報車	成田 830 さ 6627	普通		平成30年			5	1,160	4,390	1,690	1,720	1,490	1,720
29	三里塚消防署	三里塚水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅱ型)	成田 830 さ 3382	大型	消火・毒	平成28年	A2	水 2,000ℓ	6	9,490	7,320	2,320	3,040	6,400	11,820
30		三里塚ポンプ1	ポンプ車(CD-1型)	成田 830 さ 2013	準中型		平成25年	A2		5	5,310	5,720	1,910	2,650	4,000	5,585
31		三里塚化学1	化学消防車(大Ⅱ型)	成田 830 さ 119	大型		平成16年	A1	水 2,500ℓ、薬 500ℓ	5	18,340	11,630	2,490	3,500	15,240	21,635
32		三里塚救急1	高規格救急車	成田 830 せ 2012	普通	救急	平成24年			7	2,790	5,620	1,890	2,530	2,690	3,175
33		三里塚指揮1	指揮車	成田 830 さ 1007	普通		平成26年			8	1,650	4,680	1,690	2,020	1,990	2,090
34		三里塚支援1	支援車(Ⅲ型)	成田 830 た 2017	中型	後方支援	平成29年		2,000kg	20	7,470	8,390	2,480	3,360	6,400	10,240
35	空港分署	空港救急1	高規格救急車	成田 830 せ 2017	普通		平成29年			7	2,780	5,650	1,900	2,490	2,690	3,165
36		空港広報1	広報車	成田 830 さ 1187	普通		平成26年			5	1,180	4,390	1,690	1,720	1,490	1,740
37	大栄消防署	大栄水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅰ-B型)	成田 830 そ 2017	中型	消火	平成29年	A2	水 1,500ℓ	6	9,060	7,440	2,330	3,050	5,120	10,890
38		大栄ポンプ1	ポンプ車(CD-1型)	成田 830 つ 2013	準中型		平成25年	A2		5	5,470	6,000	1,880	2,950	4,000	5,745
39		成田救助2	救助工作車(Ⅱ型)	成田 830 す 119	中型		平成15年			6	9,910	7,840	2,300	3,200	7,960	10,240
40		大栄救急1	高規格救急車	成田 830 そ 2015	普通		平成28年			7	2,850	5,650	1,890	2,490	2,690	3,235
41		大栄指揮1	指揮車	成田 830 さ 4141	普通		平成29年			8	1,660	4,690	1,690	1,980	1,990	2,100
42	下総分署	下総水槽1	水槽付ポンプ車(Ⅰ-B型)	成田 830 す 4023	中型		平成28年	A2	水 1,500ℓ	6	8,460	6,900	2,280	2,970	6,400	10,290
43		下総ポンプ1	ポンプ車(CD-1型)	成田 830 さ 25	準中型		平成25年	A2		5	5,470	6,000	1,880	2,950	4,000	5,745
44		下総救急1	高規格救急車	成田 830 つ 2016	普通		平成28年			7	2,860	5,650	1,900	2,490	2,690	3,245
45		下総広報1	広報車	成田 800 さ 948	普通		平成23年			5	1,170	4,390	1,690	1,720	1,490	1,730
46	成田消防署	ボートトレーラー(ソレックス17FW)		成田 830 す 1594	-		平成27年				170	5,570	2,100	1,100		670
47		救助ボート(アキレス HB490)		-	-		平成27年			8		4,410	1,950	750		
48		折りたたみ式ボート(ゴムボート)		-	-		平成28年			5		3,470	1,650	570		
49	下総分署	ボートトレーラー		成田 830 さ 4023	-		平成26年				170	5,290	2,100	1,090		670
50		救助ボート(アキレス SG-156)		-	-		平成26年			8		4,260	1,900			

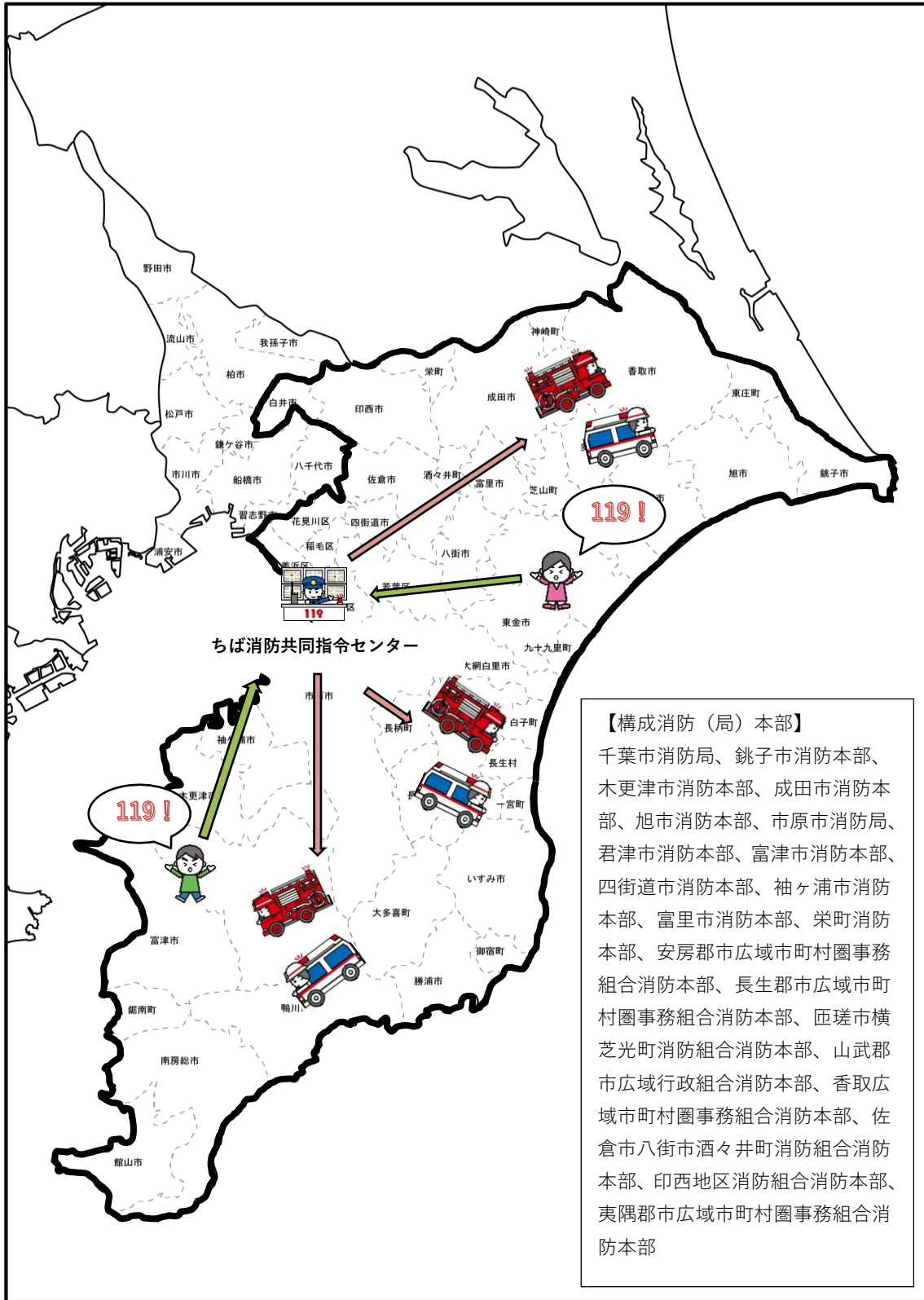
通 信 指 令



ちば消防共同指令センター

1 通信指令業務の概要

成田市を含む千葉県北東部及び南部の20消防本部の通信指令業務は、平成25年4月から「ちば消防共同指令センター」で共同運用しています。



2 消防通信指令施設の現況

令和2年4月1日現在

	種別	名 称	説 明	
ちば消防共同指令センター設備	情報共有システム	情報共有端末装置	9台（指揮指令課、4署4分署）	
		情報共有表示装置	1台（指揮指令課）	
		車両運用表示盤	9台（指揮指令課、4署4分署）	
		車両運用表示装置	1台（指揮指令課）	
		119番ヘルプ機能用電話	1回線（指揮指令課）	
	指令装置関係	署所端末装置	9式（指揮指令課、4署4分署）	
		無線指令受付装置	9式（指揮指令課、4署4分署）	
		無停電電源装置	9式（指揮指令課、4署4分署）	
	駆け付け通報装置	駆け付け通報装置	8回線（4署4分署）	
		監視カメラ	8台（4署4分署）	
	指令情報装置	指令情報出力装置	9台（指揮指令課1、4署4分署）	
		指令書プリンター	17台（指揮指令課1、4署4分署×2台）	
		車両運用端末装置（AVM）	43台	
	無線設備	陸上移動局	署活動無線機	94機
			車載無線装置	45機
可搬型無線装置			9機	
卓上型無線装置			4機	
携帯型無線装置			31機	
署所受令機		9機		
電話設備	加入電話	一般 3回線		
	F A X回線	一般 1回線		
	衛星携帯電話	7回線（非常災害時用）指揮指令課2、警防課1、各署4		
	携帯電話	38回線		
各種装置	画像伝送システム	1式（災害現場映像の伝送）		
	指揮活動用P C	6台		

3 月別出動指令状況

令和元年

種別 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
火災	10	13	6	7	17	10	7	4	8	9	5	16	112
救急	651	499	543	487	515	496	595	595	615	562	504	555	6617
救助	13	10	10	17	7	8	10	12	8	4	4	6	109
その他	146	91	84	89	74	100	91	98	165	108	108	98	1252
合計	820	613	643	600	613	614	703	709	796	683	621	675	8090

4 119番受付状況

令和元年

種別 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	
災害	火災	6	7	6	7	10	5	4	5	7	6	2	5	70
	救急	596	481	520	470	497	473	577	570	576	533	484	545	6322
	救助	10	6	6	7	5	3	3	9	2	1	3	4	59
	その他	80	59	48	44	45	60	52	55	126	88	71	52	780
小計		692	553	580	528	557	541	636	639	711	628	560	606	7231
問合せ	火災			1		2	1						7	11
	救急	5	5	10	1	7	8	7	5	11	4	4	8	75
	病院照会	18	11	16	16	22	14	19	24	35	15	8	22	220
	その他	17	17	11	11	14	20	16	8	46	26	15	10	211
小計		40	33	38	28	45	43	42	37	92	45	27	47	517
その他	いたづら	1	7	1	4	6	6	7	3	5	2	7	7	56
	無音	43	34	63	53	57	67	76	67	91	59	68	67	745
	間違い	124	100	93	129	92	128	125	119	135	151	120	114	1430
	試験	12	12	20	18	16	32	8	30	11	15	18	24	216
	転送	14	12	8	1	7	9	7	12	7	2	8	2	89
	FAX転送						1							1
	その他	5	2	9	9	5	12	9	8	9	10	9	7	94
小計		199	167	194	214	183	255	232	239	258	239	230	221	2631
合計		931	753	812	770	785	839	910	915	1061	912	817	874	10379

消 防 関 係 団 体



危険物安全協会



婦人防火指導員協議会



防火協会

1 成田市危険物安全協会

成田市危険物安全協会は、昭和40年4月、会員相互の融和と危険物の取扱管理の向上、危険物に起因する災害の防止と社会公共の福祉の増進に寄与することを目的に設立されました。

発足間もない昭和41年7月、新しい日本の空の玄関として成田空港の建設が閣議決定され、空港の建設とともに高速道路や鉄道の延長、成田ニュータウンや工業団地の建設が始まり、危険物を取り扱う事業所が増加しました。

平成18年3月27日には、成田市・下総町・大栄町の1市2町の合併及び神崎町から消防業務の委託を受けることとなったため、新たに事業所が加わり、令和2年4月1日現在では121事業所が加入しています。

【令和元年度事業実績】

実施日	概要
4月15日～19日	前期危険物取扱者受験者講習会受付
4月26日	成田市危険物安全協会第1回役員会
5月15日	千葉県危険物安全協会連合会通常総会
4月27日	前期危険物取扱者受験者講習会
5月21日	成田市危険物安全協会定期総会
6月2日～8日	平成31年度危険物安全週間 協賛
6月7日	千葉県危険物安全大会及び定例表彰
6月28日	成田市危険物安全協会普通救命講習会 15事業所24名参加
6月28日	千葉県危険物安全協会連合会事務局研修会
7月22日～26日	第2回危険物取扱者保安講習受付
8月19日～23日	第3回危険物取扱者保安講習受付
9月3日	第2回危険物取扱者保安講習
9月17日～24日	後期危険物取扱者受験者講習会受付
10月2日	後期危険物取扱者受験者講習会
10月31日	成田市危険物安全協会会員研修 22事業所27名参加 於 茨城県 JAXA 筑波宇宙センター キリンビール取手工場
11月10日	防火フェスタ2019・防火ポスター展
11月9日～15日	秋季全国火災予防運動 協賛
11月25日～11月29日	第4回危険物取扱者保安講習受付
令和2年2月21日	成田市危険物安全協会第2回役員会
3月1日～7日	春季全国火災予防運動 協賛

2 成田市防火協会

成田市防火協会は、防火管理に関する研究を行い、その向上並びに安全を図り災害予防に努めるとともに、会員相互の連絡協調を図り、職場の能率と市民共同の福祉の増進に寄与することを目的に、昭和50年に設立されました。

平成18年3月27日には、成田市・下総町・大栄町の1市2町の合併及び神崎町からの消防業務の委託を受けることとなったため、新たに事業所が加わり、令和2年4月1日現在では196の事業所が加入しています。

【令和元年度事業実績】

実施日	概要
4月25日	役員会
5月28日	令和元年度定期総会
8月24日	成田ふるさとまつり2019
9月27日	第1回普通救命講習会 19事業所31名参加
11月10日	防火フェスタ2019・防火ポスター展
11月20日	アサヒビール茨城工場・防火科学技術研究所 16事業所19名参加
11月9日～15日	秋季全国火災予防運動 協賛
令和2年2月13日	第2回普通救命講習会 19事業所31名参加
3月1日～7日	春季全国火災予防運動 協賛

3 成田市婦人防火指導員協議会

成田市婦人防火指導員協議会は、昭和54年11月に消防団組織がないニュータウン地区の方々により、結成されたものです。

活動内容は、防災研究会・防災センターの視察研修・普通救命講習・火災予防広報・消火器の取扱い講習等です。このような活動を通して防火への関心と知識を高め、家庭の防火に活かしています。

【令和元年度事業実績】

実施日	事業名	実施場所	参加者 (名)
7月9日	令和元年度総会	中央公民館（講堂）	41
7月9日	創立40周年記念講演	中央公民館（講堂）	41
8月24日	成田ふるさとまつり 消防パレード	ボンベルタ前	39
10月2日	視察研修会	西部防災センター（松戸市）	17
10月16日	普通救命講習会	保健福祉館（多目的ホール）	8
11月9日～15日	火災予防運動広報活動	成田ニュータウン地区	11
11月10日	防火フェスタ2019	ユアエルム成田	5
12月3日	消火器取り扱い講習	中郷運動施設・中郷公民館	25
令和2年1月24日	県婦人防火研修会	千葉県消防学校（市原市）	6
2月9日	成田市消防出初式	成田国際文化会館	40

【協議会に参画する自治会数及び会員数の推移】

年 度	自治会数	会 員 数	年 度	自治会数	会 員 数
平成元年	33	250	21	36	154
2	32	250	22	34	143
3	33	231	23	33	130
4	35	238	24	32	119
5	35	223	25	33	103
6	36	241	26	32	96
7	36	221	27	31	116
8	36	220	28	30	116
9	36	218	29	29	105
10	35	217	30	29	96
11	35	204	令和元年	27	85
12	33	204			
13	31	188			
14	34	195			
15	34	195			
16	35	194			
17	33	171			
18	33	172			
19	34	160			
20	34	149			



成田市観光キャラクター
うなりくん
©成田市 2009

成田市消防本部

発行 令和2年9月

登録番号 20-019

〒286-8585

千葉県成田市花崎町 760 番地

(成田市役所地下1階)

電話 0476-20-1590

FAX 0476-24-4368

E-Mail shobo@city.narita.chiba.jp

担当 消防総務課
